

第7回枚方市自然環境調査
(枚方ふるさといきもの調査)

報告書
(概要版)

令和6年(2024年)3月

枚 方 市

1	調査概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査項目	1
(3)	調査地域	2
(4)	調査フロー	3
2	調査内容	4
(1)	資料調査	4
(2)	専門調査	4
(3)	市民参加調査	9
3	調査結果	13
(1)	植物	13
(2)	哺乳類	31
(3)	鳥類	32
(4)	爬虫類・両生類	34
(5)	昆虫類（陸生昆虫・水生昆虫）	36
(6)	魚類・水生生物	38
4	とりまとめ及び考察	40
(1)	各孤立林の自然環境	40
(2)	ホタル類の確認状況	47
(3)	重要種の一覧	48
(4)	外来種の一覧	52
(5)	枚方いきもの調査会のデータとの比較	58
(6)	第5回調査との比較	59
(7)	第7回調査での新規確認種	61
(8)	みどりのネットワーク	69
(9)	枚方市の現状と課題（生物多様性の喪失について）	71
(10)	生物多様性保全のための各主体の役割	77

1 調査概要

(1) 調査目的

枚方市では、昭和63年から平成元年にかけて実施した第1回自然環境調査以降、自然環境保全法第4条に準じ、概ね5年毎に全域調査と補完調査を交互に実施している。今回の第7回自然環境調査は全域調査にあたり、市内全域を調査地域とした自然環境調査を行う。

令和3年3月に策定した枚方市生物多様性地域戦略の中で、「定期的に自然環境や生物に関する調査を実施し、市域の生態系の状況の把握に取り組む。」としており、調査結果を今後の環境施策全般の基礎資料とするとともに、環境教育・環境学習にも活用できる資料を作成することが本調査の目的である。また、市民参加型の調査手法を取り入れることにより、市民が自然環境の大切さを実感することで、環境保全に対する理解と関心を高めることにも資するものとする。

(2) 調査項目

本調査の調査項目一覧を示す。

表 1 調査項目一覧

区分	調査項目	現地調査実施箇所
資料調査	既存情報調査	－
	現存相観植生図の作成	－
	緑被状況の把握	－
専門調査	植物相	穂谷、尊延寺、淀川、船橋川、天野川、招提北町、孤立林7箇所
	重要な植物の追跡調査	穂谷、尊延寺、長尾
	重要な樹木の調査	現存する重要な樹木27箇所
	孤立林	現存する孤立林46箇所
	哺乳類・爬虫類・両生類	穂谷、尊延寺、淀川、天野川、長尾荒阪、藤阪
	鳥類	穂谷、尊延寺、淀川、船橋川、穂谷川、天野川、溜池、孤立林7箇所
	昆虫類	(陸生)穂谷、尊延寺、孤立林7箇所 (水生)尊延寺溜池群、山田池公園、王仁公園、茄子作水路
	魚類・水生生物	穂谷川、船橋川、天野川、溜池、市街地水路、淀川河川敷公園ワンド
市民調査隊	植物相（里地里山の植物調査）	淀川、天野川
	鳥類（猛禽類調査）	淀川、山田池公園、穂谷
	鳥類（水辺の鳥調査）	淀川、穂谷川、天野川
	昆虫類（溜池昆虫調査）	山田池公園、穂谷川
	昆虫類（里山昆虫調査）	尊延寺、穂谷川
	昆虫類（ホタル調査）	山田池公園
	魚類・水生生物（メダカ・淡水魚調査）	穂谷川、天野川
公開調査会	植物相（淀川植物観察会）	淀川
	植物相（里山里地植物観察会）	穂谷
	鳥類（山田池水鳥観察会）	山田池公園
	鳥類（淀川猛禽類観察会）	淀川
	爬虫類・両生類（カエル観察会）	藤阪～王仁公園
	昆虫類（里山昆虫観察会）	穂谷
	魚類・水生生物（天野川魚類観察会）	天野川

(3) 調査地域

枚方市全域を調査地域とした。（調査対象毎の調査地点は各項を参照）

枚方市は大阪府の北東部、淀川左岸に位置する北河内地区の市である。東西12km南北8.7kmで三角の形を成し、面積は65.12km²である。市内の最高地点は海拔330m、最低地点は海拔4.1mであり、標高差は約326mにもなる。北は京都府八幡市、東は京都府京田辺市および奈良県生駒市、南は大阪府寝屋川市および交野市、西は淀川を挟んで大阪府高槻市と島本町に接している。ただし、西側の市境は旧河道を基に引かれているため、淀川右岸にも一部枚方市域が、左岸にも高槻市域が存在する。

枚方市の東部は生駒山地から男山丘陵に延びる丘陵・山地地形を成している。京阪本線より西は海拔10m前後の沖積低地であり、平坦な土地が広がっている。中央部の大部分は海拔20～50mの枚方台地が占めている。その他、南西部の香里地区や中東部の長尾地区に丘陵地があり、高台を利用した住居が立ち並ぶ。枚方市内は淀川へ流れ込む支川がいくつか流れており、船橋川、穂谷川、天野川の3つが特に大きな川である。河川以外にも農業用のため池などの水場が随所に見られる。



図 1 枚方市の地形

国土地理院「色別標高図」を基に作成

(4) 調査フロー

本業務の調査実施フローチャートを図 2に示す。

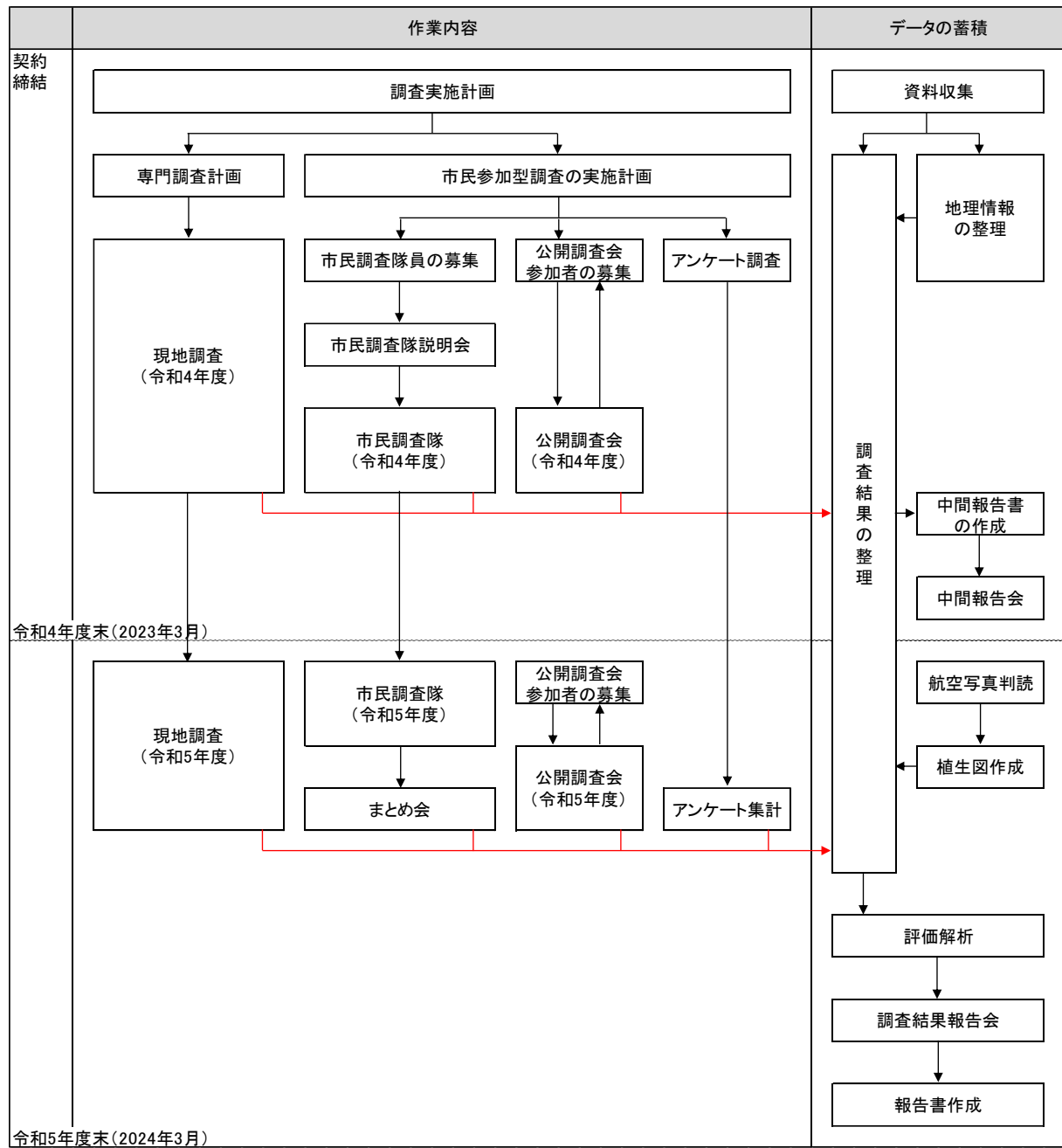


図 2 調査実施フローチャート

2 調査内容

(1) 資料調査

ア 調査項目

(ア) 既存情報調査

過去6回の自然環境調査で確認された動植物の調査結果と今回の調査結果を比較し、その変遷を表にまとめ、分析・評価を行った。また、国や大阪府等行政の資料、市民団体等による自然環境調査資料と現地調査の結果をあわせて報告書に記載した（資料編）。

(イ) 現存相観植生図の作成

枚方市第6回自然環境調査で作成された現存相観植生図を基本として、発注者が貸与する最新の航空写真の判読及び現地調査により、それ以降の植生や土地利用等の変化を把握して新たに縮尺1/15,000の植生図を作成した。

(ウ) 緑被状況の把握

最新の航空写真の判読及び現地調査を行い、緑地区分（雑木林等、竹林、植林、植栽、草地、農耕地）の項目毎に面積を算出し、割合を表にまとめた。

(2) 専門調査

現地調査により、市域の動植物の種数及びその生育・生息環境の把握を行うとともに、枚方の自然環境資源としての希少種及び重要な生育・生息環境の把握を行った。

植物や昆虫等で、現地で同定できない場合などは、必要に応じて持ち帰り同定を行った。

現地調査実施時期以外の生育・生息状況については適宜ヒアリング等で補足した。

ア 調査項目

(ア) 植物相

- ・各調査ルートを踏査し、確認された種名及び環境要素を記録・集計した。

(イ) 重要な植物の追跡調査

- ・第1回調査（1989～1990年）において重要な植物群落として抽出されたもの（カラタチバナ、テンダイウヤク、コ克蘭、キンラン）について追跡調査として現地の生育状況を確認した。
- ・その他にも、主に湿地性の重要な植物（イヌタヌキモ、デンジソウ、ミズオオバコ）について生育を確認した場合は、生育状況を調査した。
- ・これら対象種は枚方市域では比較的生育地が限定されていることや、生育地への踏み込みや採取による影響を受けやすい種であることから、継続調査の対象として位置づけられたものである。

(ウ) 重要な樹木（枚方市保存樹木等）

重要な樹木（枚方市保存樹木等）の内、現存する27本について、生育状況の確認を行った。

(エ) 孤立林

現存する46ヵ所の孤立林において、森林の概況を把握するため、対象森林の階層区分を行い、階層ごとに優占種と階層全体の被植率を記録した。また、タケやシュロの侵入の有無、クズの繁茂の有無など森林の持続上の課題がみられた場合は記録した。

孤立林の中から代表的な孤立林（計7ヵ所を想定）を選定し、植物相調査、鳥類調査、昆虫調査（陸生昆虫）を行った。調査方法は各項目を参照。

(オ) 哺乳類・爬虫類・両生類

- ・各調査地区を踏査し、目視、フィールドサイン（食痕、糞、足跡、脱皮殻など）、鳴き声、センサーカメラ等により生息種を確認した。

(カ) 鳥類

- ・各調査ルートを基本として、ラインセンサス調査を行った。調査線上を時速1.5kmの速さで歩き、定線の左右それぞれ25m以内の区域の種名及び個体数を記録した。

(キ) 昆虫類(陸上昆虫・水生昆虫)

- ・陸上昆虫は調査地域を踏査し、見つけ取り法、ふるい法、スウィーピング法、ビーティング法、ピットフォールトラップ、鳴き声等により生息種を確認した。
- ・水生昆虫は調査地点の水域でタモ網を用いて採取し、生息種を確認した。
- ・第5回調査で確認されているホタル（山田池公園）の生息状況の追跡調査を行った。
- ・溜池・水路での水生昆虫の調査は、管理する団体（市、国、地元農家組合等）の許可を得た箇所のみで実施した。

(ク) 魚類・水生生物

- ・調査範囲および地点の水域で魚類・水生生物を採集した。種名を記録・集計した後に放流した。
- ・魚類においてはスケールを当て写真撮影を行った。
- ・調査実施時の参考として、天候、水温、川幅、水深、水生植物等の状況、透視度（濁度）、pH、DO、水生植物等の状況、その他（植生や瀬や淵、護岸の状況、川底の状況など）についても記録した。
- ・魚類・水生生物の調査は、調査地を管理する団体（市、国、地元農家組合等）の許可を得た箇所のみで実施した。
- ・漁具は表 2を使用し、それぞれの調査を行った。

表 2 使用する漁具一覧

漁具	使用する漁具の構造・規模の目安
投網	目合 15mm、及び 25mm
タモ網	目合 1mm、口径 30cm
サデ網	目合 2mm、口径 100cm
セルびん	入り口径 5cm
電気ショッカー	必要に応じて他の漁具と併用する

イ 調査実施箇所

専門調査の調査実施箇所を図 3に示す。

■調査地(専門調査)

- 植物相
- 哺乳類・爬虫類・両生類
- 鳥類
- - 陸生昆虫
- 魚類・水生昆虫・その他水生生物

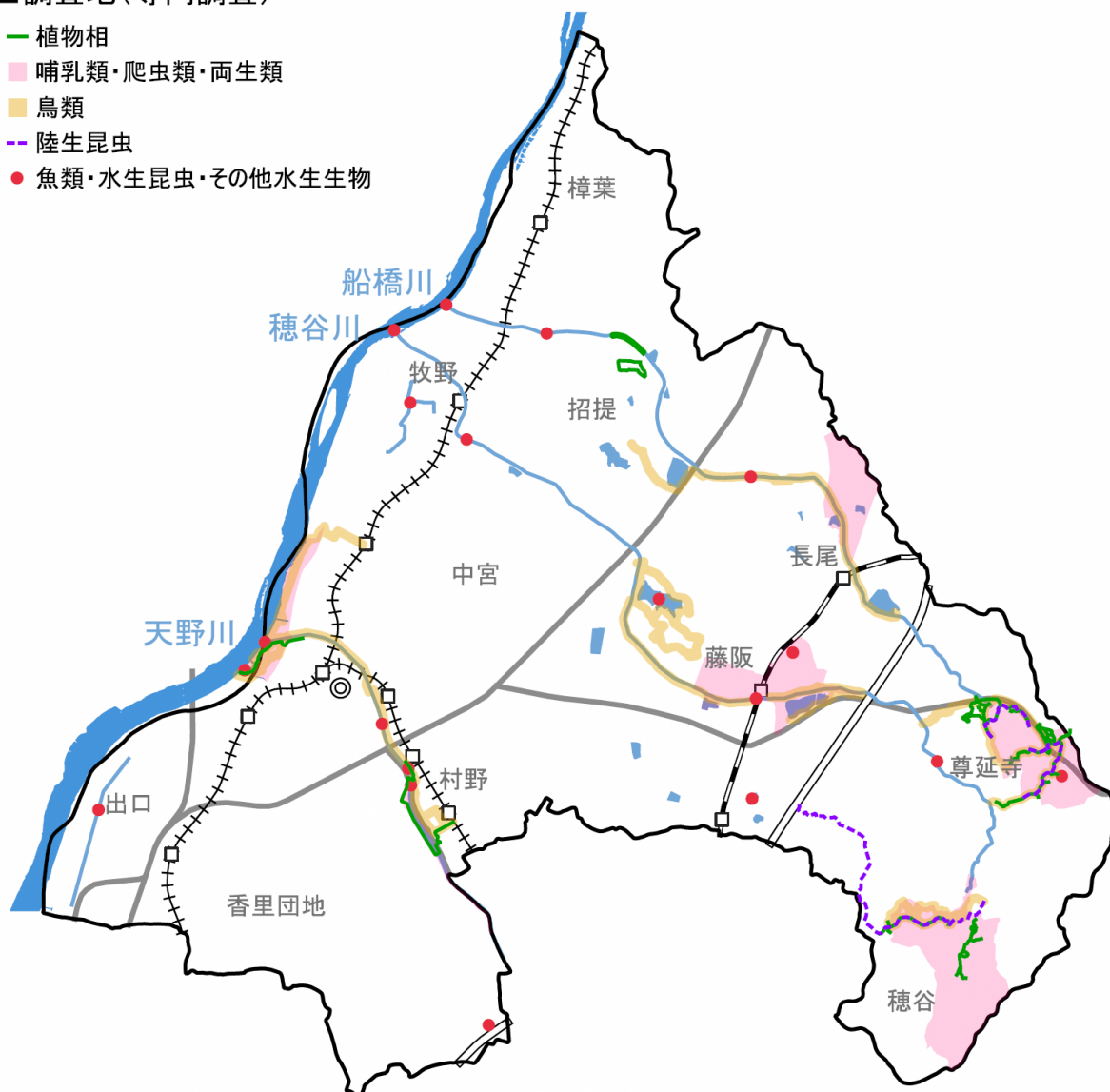


図 3 専門調査の調査実施箇所

ウ 調査日程

専門調査の調査日程を表 3 ～表 4に示す。

表 3 専門調査調査日程(1)

調査項目	調査日	季	場所
植物相	2022/9/16	秋	天野川、淀川
	2022/10/14	秋	尊延寺
	2023/4/17	春	招提北町、船橋川、淀川
	2023/4/20	春	尊延寺
	2023/4/27	春	穂谷
	2023/6/15	夏	尊延寺、孤立林(氷室台)
	2023/7/5	夏	穂谷
	2023/7/11	夏	孤立林(意賀美神社、香里ヶ丘中央公園、香里園桜木町、星ヶ丘公園)
	2023/7/13	夏	孤立林(藤阪天神、長尾菅原神社)
重要な植物	2023/4/20	春	カラタチバナ、コ克蘭
	2023/4/27	春	キンラン、コ克蘭
	2023/6/15	夏	カラタチバナ、コ克蘭
	2023/7/13	夏	テンダイウヤク
重要な樹木	2023/12/25	冬	
	2023/12/27	冬	
孤立林 (概況調査)	2023/11/12	秋	孤立林(11)
	2023/11/14	秋	孤立林(10)
	2023/11/16	秋	孤立林(9)
	2023/11/22	秋	孤立林(9)
	2023/11/26	秋	孤立林(7)
哺乳類 爬虫類 両生類	2022/10/31	秋	長尾荒阪
	2022/11/4	秋	穂谷
	2022/11/5	秋	天野川、淀川
	2023/1/31	冬	尊延寺
	2023/1/30	冬	穂谷
	2023/5/12	初夏	藤阪
	2023/5/26	初夏	天野川
	2023/6/6	初夏	長尾荒阪
	2023/6/7	初夏	穂谷
	2023/6/19	初夏	尊延寺
	2023/6/20	初夏	淀川
	2023/8/31	晩夏	藤阪
鳥類	2022/9/14	秋	天野川、淀川
	2022/9/15	秋	穂谷川、溜池(惣喜池、井手口池、最早池、山田池)
	2022/9/16	秋	船橋川、溜池(長尾大池、榑池、招提大池)
	2022/9/30	秋	穂谷
	2022/10/8	秋	尊延寺
	2023/1/11	冬	穂谷川、溜池(惣喜池、井手口池、最早池、山田池)、孤立林(藤阪天神)
	2023/1/12	冬	溜池(地藏池、津田大池、小倉池、中の池、芳池、御堂池、蜻蛉池、西方池、荒坂池)、孤立林(香里園桜木町、香里ヶ丘中央公園)
	2023/1/13	冬	淀川、天野川、孤立林(星ヶ丘公園)
	2023/1/17	冬	穂谷、尊延寺、孤立林(氷室台)
	2023/1/18	冬	船橋川、溜池(長尾大池、榑池、招提大池、今池)、孤立林(長尾菅原神社)
	2023/1/19	冬	溜池(林池、春日野新池、古池跡、中宮大池)、孤立林(意賀美神社)
	2023/4/11	春	穂谷
	2023/4/21	春	尊延寺
	2023/5/26	初夏	天野川、淀川
	2023/6/1	初夏	穂谷川、溜池(惣喜池、井手口池、最早池、山田池)
	2023/6/13	初夏	船橋川、溜池(長尾大池、榑池、招提大池)
	2023/7/6	晩夏	孤立林(長尾菅原神社、香里園桜木町、香里ヶ丘中央公園、意賀美神社、星ヶ丘公園)
	2023/7/21	晩夏	尊延寺、孤立林(氷室台)
	2023/7/31	晩夏	穂谷

表 4 専門調査調査日程(2)

調査項目	調査日	季	場所
昆虫類 (陸上)	2022/9/29	秋	尊延寺
	2022/9/30	秋	穂谷
	2023/4/17	春	孤立林(香里ヶ丘中央公園、香里園桜木町)
	2023/4/27	春	孤立林(星ヶ丘公園)
	2023/5/10	春	尊延寺
	2023/5/11	春	孤立林(長尾菅原神社、藤阪天神)
	2023/5/17	春	孤立林(意賀美神社)
	2023/5/23	春	孤立林(氷室台)
	2023/5/24	春	穂谷
	2023/7/4	夏	山田池(ホテル調査)
	2023/7/14	夏	孤立林(香里ヶ丘中央公園)
	2023/7/19	夏	孤立林(藤阪天神)
	2023/7/21	夏	孤立林(香里園桜木町)
	2023/7/24	夏	孤立林(長尾菅原神社)
	2023/7/27	夏	孤立林(意賀美神社)
	2023/8/1	夏	孤立林(氷室台)
	2023/8/2	夏	孤立林(星ヶ丘公園)
	2023/8/21	夏	尊延寺
	2023/8/22	夏	穂谷
昆虫類 (水生)	2023/4/25	春	尊延寺水路溜池、王仁公園
	2023/5/24	春	山田池、市街地水路(茄子作)
魚類 水生生物	2022/10/31	秋	船橋川
	2022/11/2	秋	山田池、地藏池
	2022/11/16	秋	穂谷川、市街地水路(西牧野)
	2022/11/17	秋	天野川、穂谷川河口
	2023/2/20	冬	穂谷川、船橋川
	2023/2/22	冬	船橋川、天野川
	2023/4/17	春	天野川
	2023/4/18	春	穂谷川、船橋川
	2023/4/19	春	穂谷川、船橋川
	2023/4/24	春	淀川ワンド、市街地水路(出口)
	2023/4/25	春	穂谷川
	2023/7/10	夏	穂谷川
	2023/7/11	夏	天野川
	2023/7/13	夏	船橋川

(3) 市民参加調査

ア 市民調査隊

枚方市の公募に応募し、登録された市民調査員と共に調査を実施した。調査にあたっては、受託者より手配した講師およびアシスタントが参加者を引率した。

里地里山の植物調査等では、調査ルートを歩いて確認した動植物の種や場所を記録した。メダカ・淡水魚調査等では、調査地点でタモ網などを用いて動物を捕獲し、種や場所を記録した。

各調査の概要を表 5に示す。

調査地点は基本的に専門調査の実施箇所の中から、交通の便や安全性、参加者の意見・要望（説明会時等に聴取）を考慮して選定した。事前に下見を実施し、スズメバチの巣等が発見された場合は除却等の対応をした。

まとめ回として、各調査のとりまとめ結果を市民調査員に対して報告する調査報告会を行った。中間および最終の2回実施した。

表 5 市民調査隊による調査一覧

調査名称	調査対象	調査回数	調査場所	備考
里地里山の植物調査	植物相	6	淀川河川敷、天野川、穂谷川、山田池公園、藤阪菅原神社～王仁公園	
猛禽類調査	鳥類 (猛禽類がメイン)	5	淀川河川敷、山田池公園、穂谷国見山	
水辺の鳥調査	鳥類 (水鳥がメイン)	5	淀川河川敷、天野川、穂谷川、山田池公園、尊延寺	
里山昆虫調査	陸生昆虫	8	淀川河川敷、穂谷川、山田池公園、穂谷、尊延寺	
溜池昆虫調査	水生昆虫	10	穂谷川、山田池公園、王仁公園、尊延寺水路	
メダカ・淡水魚調査	魚類・水生生物	10	天野川、穂谷川、船橋川、山田池公園、尊延寺水路	
ホタル調査	ホタル	2	山田池公園	夜間の実施
まとめ回 (調査報告会)	—	2	(サブリ村野)	各年度末

イ 公開調査会

登録された市民調査員以外のより広範な市民層への普及啓発を目指した観察会を実施した。調査にあたっては市民調査隊と同じく、受託者により手配した講師およびアシスタントが参加者を引率した。

山田池水鳥観察会等では、調査ルートを歩いて確認した動植物の種や場所を記録した。天野川観察会等では、調査地点でタモ網などを用いて動物を捕獲し、種や場所を記録した。

各調査会の概要を表 6に示す。

表 6 公開調査会一覧

観察会名称	調査対象	時期	調査場所	備考
猛禽類観察会	鳥類 (猛禽類がメイン)	初冬	淀川河川敷	
山田池水鳥観察会	鳥類 (水鳥がメイン)	冬	山田池公園	
淀川植物観察会	植物	初夏	淀川河川敷	
里山里地植物観察会	植物	初夏	穂谷公民館 ～野外活動センター	
里山昆虫観察会	陸生昆虫	夏	穂谷公民館 ～野外活動センター	
カエル観察会	両生類・爬虫類	夏	穂谷	
天野川魚類観察会	魚類・水生生物	夏・秋	天野川	2回実施

ウ アンケート調査

(ア) 調査目的・方法

アンケート調査は、専門調査等で確認できなかった種などを補完することを目的に実施した。市民調査員を含む一般市民から生物の目撃情報の提供を募り、得られた動植物名や場所の情報を収集した。可能な限り写真による裏付けを依頼した。アンケートの受け取りには専用のメールアドレスを開設し、いつでも目撃情報等を投稿できるようにした（募集期間：令和5年3月～12月）。

情報の収集効率を高めるために、以下の3項目をメインの調査対象として設定し、目撃情報の収集を行った。いずれの項目も夜行性または潜行性の種が多く、偶発的な遭遇でしか確認が難しい種となっている。

□哺乳類

確認例の多くは轢死体などの斃死体の情報となると見込まれる。

イヌ、ネコなどのペットは対象外とする。

□両生類・爬虫類

- ・アカハライモリ（湿地的環境の指標種）
- ・ニホンヒキガエル（孤立した緑地などで生息している可能性有）
- ・ニホンイシガメ
- ・トカゲ・ヤモリ類（ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ニホンヤモリ）
- ・ヘビ類（シマヘビ、ジムグリ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ）

□夜行性鳥類

専門調査等での確認は難しいが、当該地の居住者であれば鳴き声を聞く機会が多いと考えられる。いずれの種もレッドリストに記載される重要種であり、広く市民から情報提供を呼びかけ、生息情報を収集する。

- ・フクロウ
- ・アオバズク
- ・ヨタカ

(イ) アンケート結果

有効な情報は得られなかった。

エ 実施日程

市民参加調査の実施日程を表 7に示す。

表 7 市民参加調査実施日程

形式	項目	実施予定日	曜	参加者	実施場所	実施時間	備考
市民調査隊	里地里山の植物調査	2022/9/25	日	13	淀川河川敷	9:00～12:00	
		2022/10/23	日	11	天野川(村野)	9:00～12:00	
		2023/4/2	日	4	穂谷川(藤阪)	9:00～12:00	
		2023/5/2	火	10	山田池公園	9:30～12:30	
		2023/5/13	土	4	天野川(星ヶ丘)	9:30～12:30	
		2023/6/4	日	7	藤阪菅原神社～王仁公園	9:30～12:30	
	猛禽類調査	2022/12/24	土	14	淀川河川敷	8:30～10:30	
		2023/1/28	土	4	山田池公園	8:30～11:30	
		2023/4/1	土	5	穂谷国見山	9:10～13:00	
		2023/9/30	土	2	穂谷国見山	9:10～13:00	
	水辺の鳥調査	2023/10/7	土	1	穂谷国見山	9:10～13:00	
		2022/12/17	土	7	穂谷川(藤阪)	8:30～11:00	
		2023/1/21	土	9	天野川(河口～星丘)	8:30～11:00	
		2023/2/18	土	9	淀川河川敷	8:30～11:00	
		2023/4/16	日	2	尊延寺	9:10～13:00	
	里山昆虫調査	2023/6/17	土	11	山田池公園	8:30～11:30	
		2022/10/9	日	5	尊延寺	9:45～13:00	
		2022/10/22	土	3	穂谷川(藤阪)	13:15～15:30	
		2023/3/25	土	2	尊延寺	9:45～13:00	
		2023/4/22	土	5	穂谷	9:45～13:00	
		2023/5/27	土	3	山田池公園	9:30～12:00	
		2023/6/24	土	2	淀川河川敷	9:00～12:00	
		2023/7/22	土	2	穂谷	9:45～13:00	
	溜池昆虫調査	2023/8/26	土	3	山田池公園	9:30～12:00	
		2022/10/2	日	2	穂谷川(阪今池公園付近)	9:30～12:00	淡水魚調査と同時実施
		2022/10/10	月	3	山田池公園	9:30～12:00	
		2022/10/22	土	7	穂谷川(藤阪)	9:30～12:00	淡水魚調査と同時実施
		2023/3/11	土	4	王仁公園	10:00～12:30	
		2023/4/8	土	2	尊延寺水路	9:45～13:00	
		2023/5/27	土	1	山田池公園南の沢	13:30～16:00	
		2023/7/2	日	中止	出口地区	9:30～12:30	淡水魚調査と同時実施
		2023/7/9	日	中止	天野川・藤田川合流点	9:30～12:30	淡水魚調査と同時実施
		2023/8/13	日	5	山田池公園南の沢	9:30～12:00	淡水魚調査と同時実施
		2023/9/10	日	1	尊延寺水路	9:45～13:00	淡水魚調査と同時実施
	メダカ・淡水魚調査	2023/9/24	日	0	天野川・藤田川合流点	9:30～12:30	
		2022/10/2	日	5	穂谷川(阪今池公園付近)	9:30～12:00	溜池昆虫調査と同時実施
		2022/10/22	土	7	穂谷川(藤阪)	9:30～12:00	溜池昆虫調査と同時実施
		2023/3/12	日	10	天野川(宮之阪付近)	9:30～12:00	
		2023/4/9	日	3	船橋川(長尾)	9:30～12:00	
		2023/5/27	土	3	山田池公園南の沢	13:30～16:00	溜池昆虫調査と同時実施
		2023/7/2	日	中止	出口地区	9:30～12:30	溜池昆虫調査と同時実施
		2023/7/9	日	中止	天野川・藤田川合流点	9:30～12:30	溜池昆虫調査と同時実施
		2023/8/13	日	5	山田池公園南の沢	9:30～12:00	溜池昆虫調査と同時実施
		2023/9/10	日	2	尊延寺水路	9:45～13:00	溜池昆虫調査と同時実施
		2023/9/24	日	0	天野川・藤田川合流点	9:30～12:30	
	ホタル調査	2023/6/4	日	5	山田池公園	19:45～21:00	
		2023/6/11	日	2	山田池公園	19:45～21:00	
	まとめ回 (調査報告会)	2023/3/19	日		サブリ村野	10:00～10:30	中間報告会
		2024/2/23	金		サブリ村野	10:00～12:00	最終報告会
公開調査会	猛禽類観察会	2022/12/11	日	25	淀川河川敷	9:00～12:00	
	山田池水鳥観察会	2023/1/15	日	33	山田池公園	9:00～12:00	
	淀川植物観察会	2023/6/25	日	38	淀川河川敷	9:00～12:00	
	里山里地植物観察会	2023/7/16	日	32	穂谷	9:45～12:00	
	里山昆虫観察会	2023/8/6	日	32	穂谷	9:45～12:00	
	カエル観察会	2023/8/27	日	34	穂谷	9:45～12:00	
	天野川魚類観察会	2023/9/3	日	29	天野川(宮之阪付近)	9:45～12:00	
		2023/10/21	土	30	天野川(星ヶ丘付近)	9:40～12:00	

3 調査結果

(1) 植物

ア 植生

(ア) 現存相観植生図

植生図の作成にあたっては、最新の航空写真の判読により植生の相観区分を行い、植生の分布状況を確認・図示することにより作成し、航空写真での判読が難しい箇所等については現地での確認を行った。作成した植生図を図 4に示すと共に、植生単位等の凡例の概要を表 8に整理した。

表 8 現存相観植生図の凡例概要

緑地 区分	植生図凡例	概 要
雑木林 等	コジイ林	人為干渉の少なかった社寺林などに残る、地域の自然植生。 樹林高は 15m 以上と高く、大木が混じる。
	ヤナギ林	淀川や市内河川の河畔林。 ヤナギ以外にもエノキ、ムクノキ、センダン、ニワウルシ等の河畔に見られる 広葉樹林を含む。
	コナラ林	かつて農用林などの人為干渉を受け、コナラ等を中心に成立した二次林。 放置されたものはアラカシ林へと遷移したり、モウソウチクに侵入されたりし ている。
	アラカシ林	かつて農用林などの人為干渉を受け、アラカシを中心に成立した二次林。 コナラ林、アカマツ林が放置されて成立した樹林。
	アカマツ林	かつて用材林として維持管理されたアカマツの樹林。 マツ枯れにより現在はゴルフ場の中や穂谷川沿いにわずかに残るのみである。
竹林	竹林	モウソウチク等の竹類によって構成される群落。 タケノコ生産のモウソウチク林が多く、放置され、過密状態の林分もよく見ら れる。隣接する他の植生に侵入して拡大する傾向が見られる。
植林	植林	植林されたスギやヒノキで構成される群落。人工林。 国見山中腹に見られる林分は、戦後に植林されたニセアカシア林が山火事で焼 失した後に植えられたものである。
	ニセアカシア林	造成法面などの緑化木として植栽されたニセアカシアの群落。 成長は早いが倒伏しやすく単純林を形成しやすい。 市内では第二京阪道路沿いで見られる。
植栽	植栽	公園緑地、街路樹、住宅団地などに植栽された樹木群。 土地の用途によって、公園、学校、住宅、施設に細分した。
	屋上緑化	建築物の屋上に存在する植栽。屋上庭園。 ヒートアイランド現象への対策として普及しつつある。
草地	高茎草本	ヨシ、オギ、セイタカヨシなどの群落高 1m～5m 程度の草本群落。 淀川河川敷や休耕地、空き地などで見られる。
	低茎草本	シロツメグサ群落やチガヤ群落などの群落高 1m 以下の雑草群落。 休耕地や畦、河川堤防の法面、空き地などで見られる。
	芝草地	植栽されたシバ等によって構成された群落。芝生地。 公園緑地、ゴルフ場などの管理された土地に存在し、定期的に刈り取りによっ て維持される。管理がなされない場合、低茎草本群落へ遷移する。
農耕地	農耕地	田畑や果樹園などの農業を行うために整備された生産緑地。 枚方市内の水田は、東部地域山間部の棚田、圃場整備された水田、平地の溜池 灌漑水田、淀川沿いの河川灌漑水田など様々なタイプが見られる。

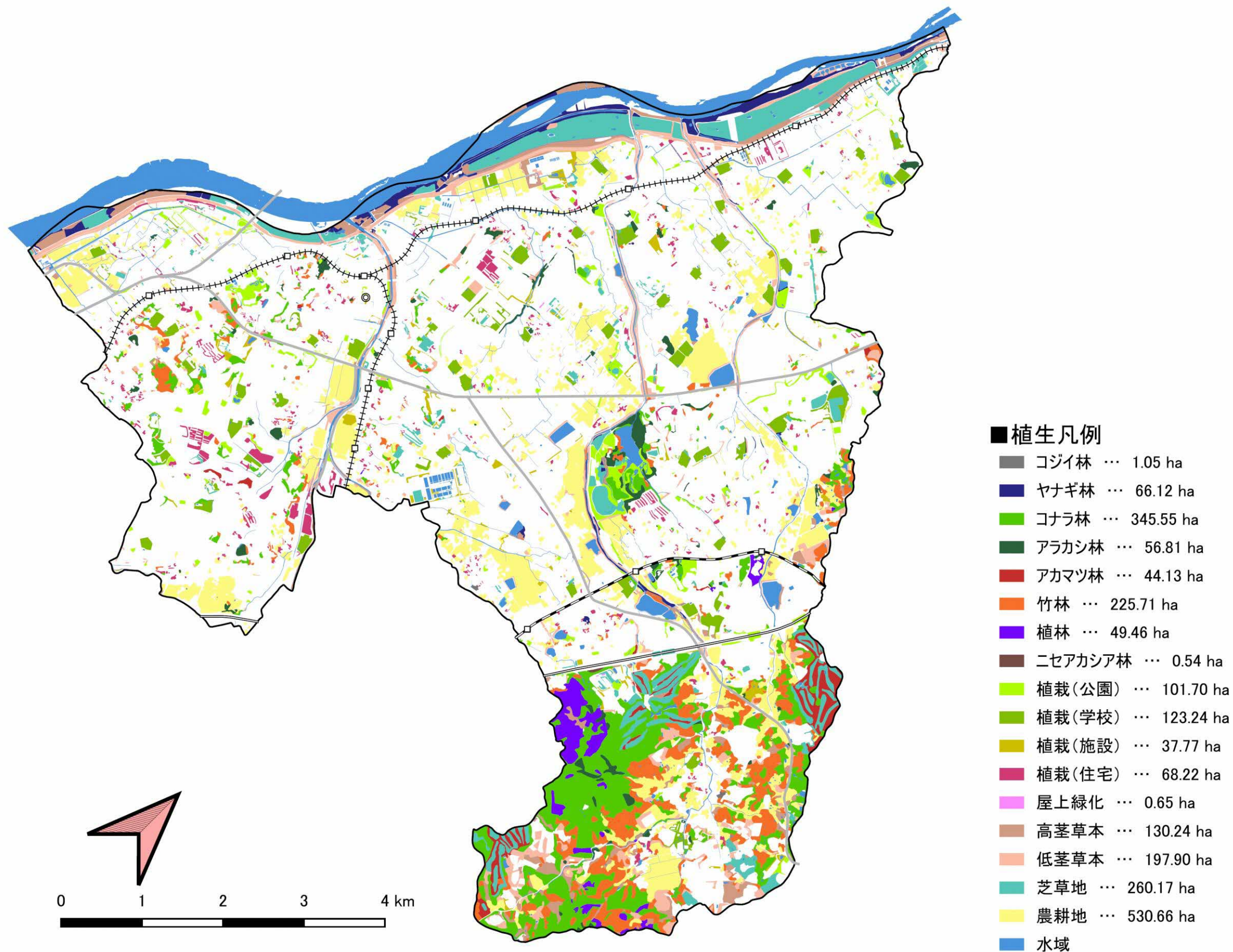


図 4 現存相観植生図 (5万分の1)

(イ) 緑被状況

作成した現存相観植生図を基に、緑地区分（雑木林等、竹林、植林、植栽、草地、農耕地）の項目毎に面積を算出した。植生面積について1990年の第1回から今回迄の変化を表 9および図 5に示した。

1990年以降、年々農耕地の面積が減少している。宅地開発等により消失したり、耕作放棄されて草地や主に先駆性の樹種が生育する樹林へと変遷した箇所が多く確認された。

植栽の占める面積は近年上昇傾向にある。草地となっていた空き地等が住宅団地等になり、多くの木々が植栽として植えられている。

表 9 植物面積および緑被率の経年変化状況

(単位：ha)

緑地区分	1990年	2000年	2007年	2012年	2018年	2023年
雑木林等	570.80	495.20	461.65	480.85	461.66	513.66
竹林	167.03	221.90	224.82	233.18	225.54	225.71
植林	68.25	51.79	54.06	51.83	53.48	49.99
植栽	68.30	63.45	114.49	150.85	217.98	331.59
草地	221.55	545.91	510.11	589.19	632.06	588.31
農耕地	878.45	783.07	701.77	642.74	579.26	530.66
合計	1974.38	2161.32	2066.90	2148.64	2169.98	2239.92
市域全体の 緑被率(%)	30.3	33.5	31.8	33.0	33.1	34.4

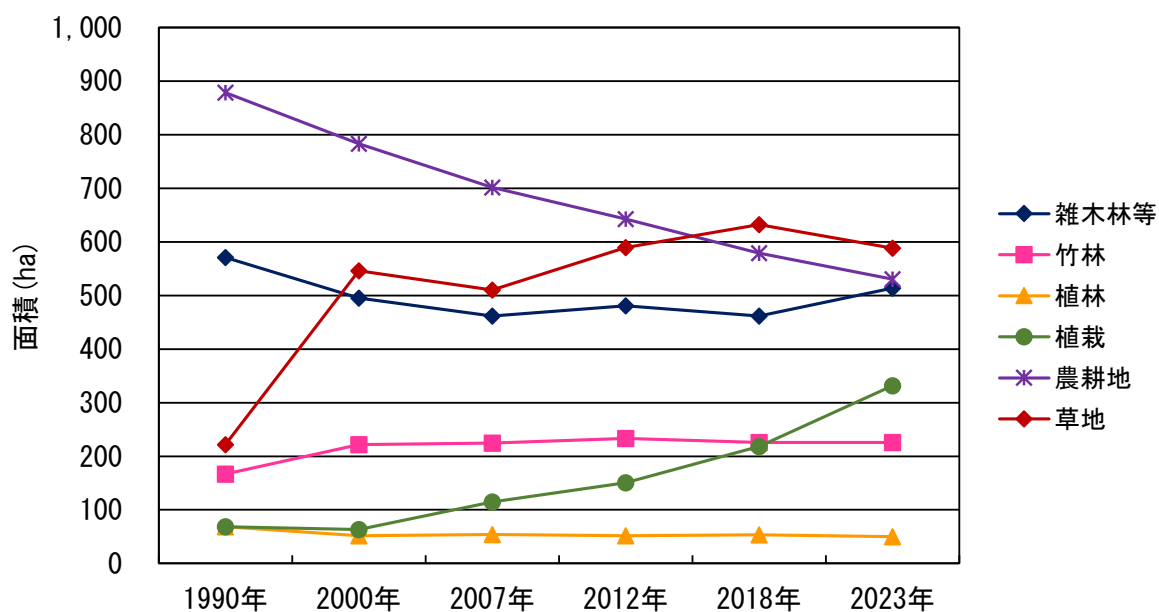


図 5 植生面積の経年変化

イ 植物相

第7回枚方市自然環境調査の結果、地区全体で141科793種の植物種を確認した。調査地区別では、尊延寺・氷室台地区で最も種数が多く確認された。

確認種の内、マツバランやヒメミズワラビなど計20種がレッドリストに記載されている重要種であった。ただし、ユキヤナギなど植栽された種や、コブシやニッケイなど植栽された物が逸出した種などが9種含まれる。

表 10 植物相調査確認種内訳

分類	穂谷		尊延寺・氷室台		淀川		船橋川・招提北町		天野川		長尾		藤阪・王仁山田池		枚方西部孤立林		合計	
	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種
シダ植物	16	44	18	43	4	4	6	7	2	3	3	3	12	26	8	12	19	63
種子植物	裸子植物	2	3	3	3	0	0	0	0	0	2	4	3	7	2	3	3	8
	基部被子植物	5	11	3	4	2	2	2	2	2	3	5	5	9	3	4	6	15
	単子葉植物	16	74	20	118	8	63	5	20	7	55	11	35	15	68	9	28	195
	真正双子葉植物	61	236	79	298	45	167	35	114	48	141	44	126	57	229	47	105	512
合計		100	368	123	466	59	236	48	143	59	201	63	173	92	339	69	152	793

表 11 植物の重要種一覧

No.	分類			種名	第7回 新規種	調査地区										レッドデータブック文献			備考
						穂谷	氷室延寺・	淀川	招船橋提北川町・	天野川	長尾	山藤阪池・王仁	孤立方林西部	環境省	近畿	大阪府			
1	シダ	マツバラン目	マツバラン科	マツバラン			○					●		NT	NT	CR+EN	逸出の可能性有		
2	植物	ウラボシ目	イノモトソウ科	ヒメミズワラビ			○			○●					NT	NT			
3	基部被子	モクレン目	モクレン科	コブシ		○						●			C		逸出		
4	植物	クスノキ目	クスノキ科	ニッケイ								○		NT			逸出		
5	単子葉	オモダカ目	トチカガミ科	ミズオオバコ			○							VU		NT			
6	植物	クサスギカズラ目	ラン科	シラン					○					NT	C	CR+EN	逸出		
7				タシロラン	☆		○●							NT	NT				
8				クロヤツシロラン				○								NT			
9			ヒガンバナ科	ニラ			○	●		○					A		逸出		
10			クサスギカズラ科	ミズギボウシ			○								C	VU			
11		イネ目	カヤツリグサ科	ヤガミスゲ				○●							C	NT			
12				ヤブスゲ	☆							●			A				
13	双子葉	バラ目	バラ科	ユキヤナギ								●			NT	VU	植栽		
14	植物	リンドウ目	キョウチクトウ科	ケテイカカズラ								●			NT		植栽		
15				スズサイコ			○							NT	C	VU			
16		シソ目	モクセイ科	ヒトツバタゴ	☆							●			VU		植栽		
17			オオバコ科	カワヂシャ				○	○					NT	NT	NT			
18			シソ科	コムラサキ					○						C	VU	逸出		
19				ミゾコウジュ				●						NT	C	NT			
20		キク目	キク科	オグルマ			○				○				C	CR+EN			
種数					3種	2種	8種	4種	3種	2種	1種	7種	0種	9種	16種	13種			

○：専門調査で確認、●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

近 畿：レッドデータブック近畿研究会(2001)「改訂・近畿地方の保護上重要な植物」の掲載種

EX：絶滅種、A：絶滅危惧種 A、B：絶滅危惧種 B、C：絶滅危惧種 C、NT：準絶滅危惧種

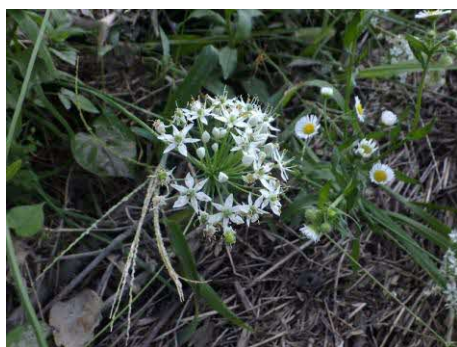
大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足

確認種の内、アレチウリ、ナガエツルノゲイトウ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、ナルトサワギクの計5種が特定外来生物に該当した。これらの特定外来生物は河川敷などの攪乱が生じやすい環境を好み、攪乱が起こったタイミングで在来種より早いスピードで繁茂し、空間を占拠する。今回の調査でも淀川河川敷や天野川などで多くの種が確認された。

表 12 植物の特定外来生物種一覧

No.	分類			種名	調査地区								備考
					穂谷	水尊延台寺・	淀川	招船提橋北川町・	天野川	長尾	山藤田阪池・王仁	孤枚立方林西部	
1	双子葉	ウリ目	ウリ科	アレチウリ			○●		○●				特定外来生物
2	植物	ナデシコ目	ヒユ科	ナガエツルノゲイトウ			○●		○●				特定外来生物
3		シソ目	オオバコ科	オオカワヂシャ		○	○	○	●		●		特定外来生物
4		キク目	キク科	オオキンケイギク		○			●				特定外来生物
5				ナルトサワギク			●	○				○	特定外来生物
種数					0種	2種	4種	2種	4種	0種	1種	1種	



ニラ
(天野川・2022/09/16)



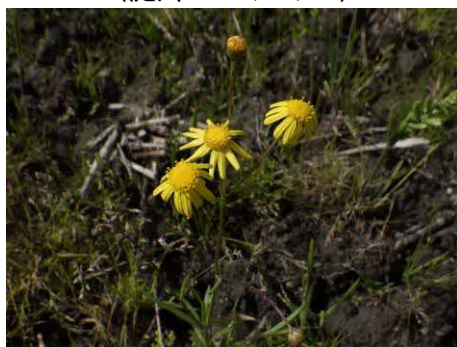
タシロラン
(穂谷・2023/07/05)



ヤガミスゲ
(淀川・2023/04/17)



アレチウリ
(淀川・2022/09/16)



ナルトサワギク
(招提北町・2023/04/17)



オオカワヂシャ
(尊延寺・2023/04/20)

ウ 重要な植物の追跡調査

第1回調査（1989～1990年）において重要な植物群落として抽出されたもの（カラタチバナ、テンダイウヤク、コ克蘭、キンラン）について追跡調査として現地の生育状況を確認した。その他にも、主に湿地性の重要な植物（イヌタヌキモ、デンジソウ、ミズオオバコ）について生育を確認した場合は、生育状況を調査した。これら対象種は枚方市域では比較的生育地が限定されていることや、生育地への踏み込みや採取による影響を受けやすい種であることから、継続調査の対象として位置づけられたものである。

各種の生育状況を表 13に示す。

表 13 重要な植物の追跡調査結果

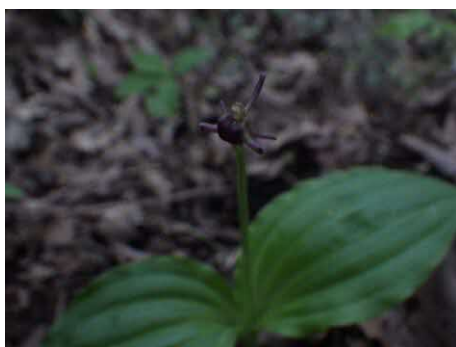
重要な植物	第 5 回調査時の状況	第 7 回調査時の状況
カラタチバナ	氷室台の 1 地点で 2 株確認。 穂谷では確認されず。	氷室台の 1 地点で 1 株確認。 草丈は 15cm ほどであった。
テンダイウヤク	長尾菅原神社、荒坂池北の竹林、北山の 3 箇所を確認。荒坂池北の竹林では 20 株程度生育。北山は開発の際に移植されたもので、群生している。	長尾菅原神社で 21 株確認。 荒坂池北の竹林の個体群は消失。 北山の個体群は位置情報喪失のため不明。
コ克蘭	尊延寺 5 地点、穂谷 1 地点で確認。 株数は各地点とも数株程度。	尊延寺 10 地点、穂谷 1 地点、氷室台 3 地点、香里園桜木町 1 地点、長尾菅原神社 1 地点で確認。 1 地点毎の株数は 1～30 株で、総確認株数は 169 株。
キンラン	確認なし。枚方いきもの調査会によると毎年、穂谷で確認できていたが今年は豪雨による土砂流出で埋没した可能性があるとのことである。	確認なし。
イヌタヌキモ	－	確認なし。
デンジソウ	－	確認なし。
ミズオオバコ	－	尊延寺の 1 地点で 20 株確認。 一部の個体は開花していた。



カラタチバナ
(氷室台・2023/06/15)



カラタチバナ生育環境
(氷室台・2023/06/15)



コ克蘭
(穂谷・2023/07/05)



コ克蘭生育環境
(穂谷・2023/07/05)



コ克蘭
(尊延寺・2023/06/15)



コ克蘭生育環境
(尊延寺・2023/06/15)



テンダイウヤク
(長尾菅原神社・2023/07/13)



テンダイウヤク生育環境
(長尾菅原神社・2023/07/13)



ミズオオバコ
(尊延寺・2022/10/14)



ミズオオバコ生育環境
(尊延寺・2022/10/14)

エ 重要な樹木(枚方市保存樹木等)

鎮守の森の木や校庭にそびえ立つケヤキの大木など、何百年と風雪に耐えて生き続けている木は、地域の目印やシンボルであったり、ふるさとの景観に欠かせない貴重な存在である。このような郷土の景観や地域のシンボルとして重要な役割をもつ樹木個体を本調査では重要な樹木として継続的に調査を行っている。

調査対象とした樹木個体は第5回調査時点で現存していた計27本とした。各重要な樹木の位置を図 6に、調査結果を表 14 ～表 20に示す。

第7回調査において新たに「No. 8 ヤマモモ」の消失および「No. 101 クスノキ」の枯死を確認した。

意賀美神社の境内に生育する「No. 11～13 クスノキ」は過年度調査の個体写真が混同しており、社叢林内に似たような大きさの樹木が多くあるため、個体の特定が不可能であった。同神社の神主に聞き取りを行ったが、所在は分からなかった。

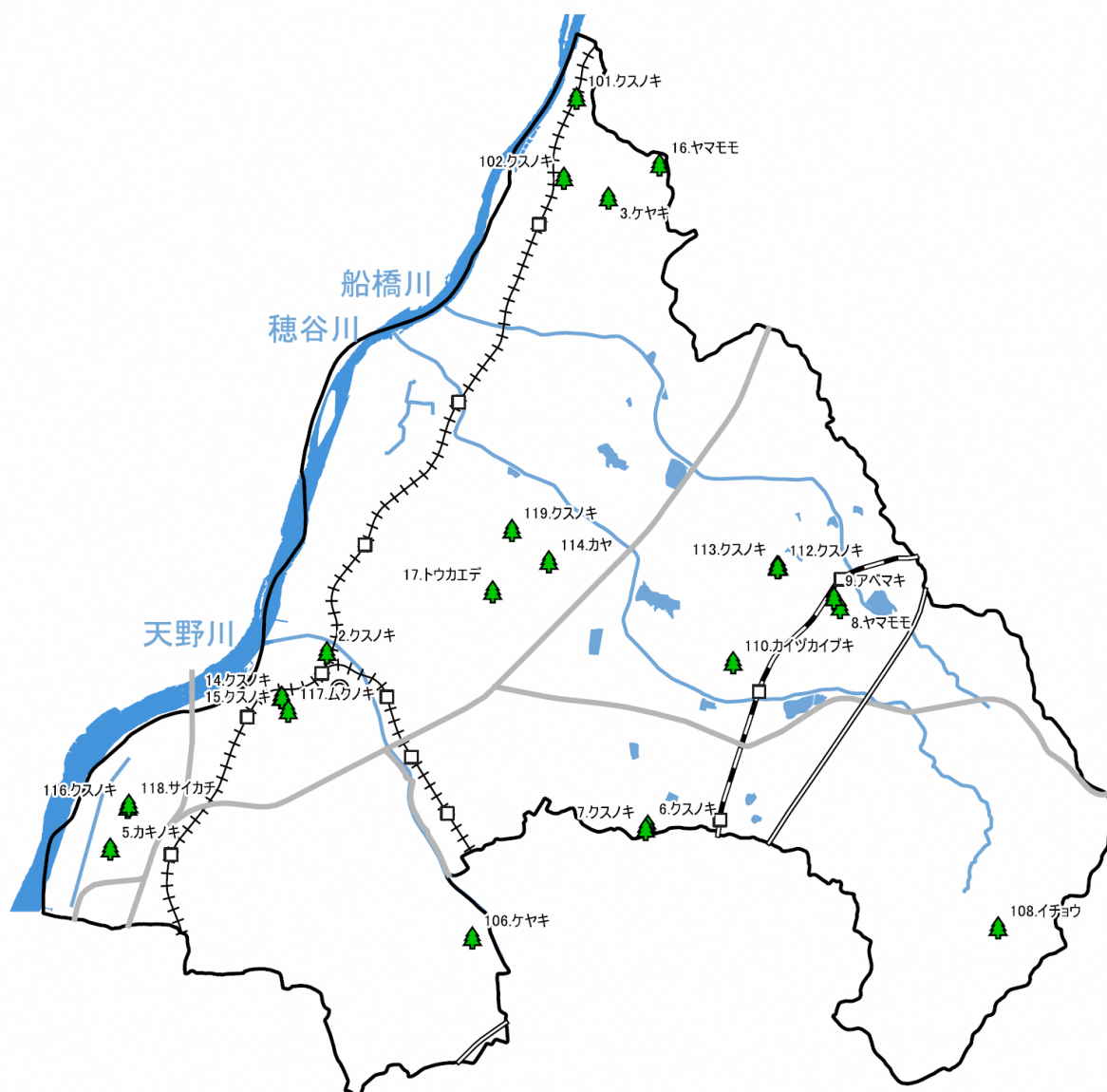


図 6 重要な樹木の位置

表 14 重要な樹木の調査結果(1)

重要な樹木	写真
No.2 クスノキ 所在：新町1丁目（民間所有） 幹周：3.84 m 高さ：12.5 m 備考：近くに石碑有 【第3回調査時（平成13年）の状況】 枝打ちの切断面に防腐処置（アルミ貼付）、やや衰弱 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No.3 ケヤキ 所在：南楠葉2丁目40 樟葉小学校（市所有） 幹周：3.3 m 高さ：24.0 m 備考：説明看板 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 樹勢回復処理後、良好に生育 【第7回調査時（令和6年）の状況】 良好に生育	
No.5 カキノキ 所在：出口5丁目（民間所有） 幹周：3.38 m 高さ：13.5 m 備考：石碑、注連縄 【第3回調査時（平成13年）の状況】 主幹下部の地際から3mまで空洞、3方が建物に囲まれた狭い空間、やや衰弱 【第5回調査時（平成24年）の状況】 主幹下部の地際から3mまで空洞、3方が建物に囲まれた狭い空間、やや衰弱 【第7回調査時（令和5年）の状況】 主幹下部の地際から3mまで空洞、片方の建物が消失し日当たり改善、良好に生育	
No.6 クスノキ 所在：春日元町2丁目18 春日神社（民間所有） 幹周：5.10 m 高さ：25.0 m 備考：注連縄 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	

表 15 重要な樹木の調査結果 (2)

重要な樹木	写真
No. 7 クスノキ 所在：春日元町2丁目18 春日神社 池の裏（民間所有） 幹周：4.00 m 高さ：11.5 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育、枝打ちされている 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 8 ヤマモモ 所在：長尾宮前1丁目 菅原神社 水神宮付近（民間所有） 幹周：1.8 m 高さ：18.0 m 備考： 【第5回調査時（平成24年）の状況】 やや衰弱、地際から1.2mまで空洞 【第7回調査時（令和5年）の状況】 倒木の恐れがあり、伐採されたため、消失した	
No. 9 アベマキ 所在：長尾宮前1丁目 菅原神社（民間所有） 幹周：1.71 m 高さ：23.5 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 11 クスノキ 所在：枚方上之町1 意賀美神社（民間所有） 幹周：2.88 m 高さ：21.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 周囲（社叢林）に似たような大きさのクスノキが多くあり、対象木の特定が不可能であった。	 (H25当時の写真) ※No. 11～13の写真は混同されており、写真の個体がどの樹木か不明である。

表 16 重要な樹木の調査結果 (3)

重要な樹木	写真
No. 12 クスノキ 所在：枚方上之町1 意賀美神社（民間所有） 幹周：2.47 m 高さ：18.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 周囲（社叢林）に似たような大きさのクスノキが多くあり、 対象木の特定が不可能であった。	(なし)
No. 13 クスノキ 所在：枚方上之町1 意賀美神社（民間所有） 幹周：2.2 m 高さ：18.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 周囲（社叢林）に似たような大きさのクスノキが多くあり、 対象木の特定が不可能であった。	(なし)
No. 14 クスノキ 所在：枚方上之町1 意賀美神社（民間所有） 幹周：2.70 m 高さ：15.0 m 備考：約2m上で二股に分かれる 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 15 クスノキ 所在：枚方上之町1 意賀美神社（民間所有） 幹周：2.02 m 高さ：15.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	

表 17 重要な樹木の調査結果(4)

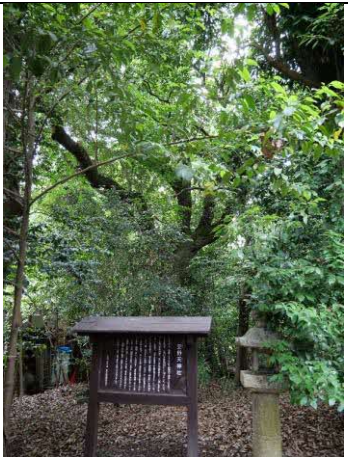
重要な樹木	写真
No. 16 ヤマモモ 所在：楠葉丘2丁目19 交野天神社（民間所有） 幹周：2.8 m 高さ：19.5 m 備考：神社社叢林内 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 17 トウカエデ 所在：甲斐田町1 山田小学校（民間所有） 幹周：2.3 m 高さ：19.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和6年）の状況】 良好に生育	
No. 101 クスノキ 所在：楠葉中之芝1丁目21 久親恩寺（民間所有） 幹周：3.30 m 高さ：11.5 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 平成27年に火災に見舞われた影響で枯死、その際に全ての枝が枝打ちされた	
No. 102 クスノキ 所在：町楠葉2丁目3 楠玉龍神社（民間所有） 幹周：3.96 m 高さ：22.5 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 樹勢回復処理跡あり、良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 樹勢回復処理跡あり、良好に生育	

表 18 重要な樹木の調査結果 (5)

重要な樹木	写真
No. 106 ケヤキ 所在：釈尊寺町（民間所有） 幹周：3.15 m 高さ：8.0 m 備考：民家の庭 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 やや樹勢が衰え、枯れ枝が落ちる危険性あり 【第7回調査時（令和5年）の状況】 衰弱、枝は全て枝打ちされている	
No. 108 イチョウ 所在：穂谷3丁目20 長傳寺（民間所有） 幹周：2.07 m 高さ：10.5 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 風当たりの良い場所なので、5～6年前の台風で激しく揺れ、倒木、幹折れの危険があったため、枝打ちした 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 110 カイツカイブキ 所在：藤阪元町1丁目（民間所有） 幹周：2.85 m 高さ：8.5 m 備考：民家の庭 【第3回調査時（平成13年）の状況】 やや衰弱 【第5回調査時（平成24年）の状況】 やや衰弱 【第7回調査時（令和5年）の状況】 やや衰弱	
No. 111 クスノキ 所在：長尾元町2丁目33 称念寺裏庭（民間所有） 幹周：3.67 m 高さ：17.0 m 備考：平成29年に保存樹木から除外された 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	

表 19 重要な樹木の調査結果 (6)

重要な樹木	写真
No. 112 クスノキ 所在：長尾元町2丁目33 称念寺裏庭（民間所有） 幹周：3.61 m 高さ：18.5 m 備考：平成29年に保存樹木から除外された 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 113 クスノキ 所在：長尾元町2丁目33 称念寺裏庭（民間所有） 幹周：2.67 m 高さ：15.5 m 備考：平成29年に保存樹木から除外された 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 114 カヤ 所在：田口1丁目（民間所有） 幹周：3.27 m 高さ：11.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 衰弱、再生処置中 【第5回調査時（平成24年）の状況】 再生処理後、良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 116 クスノキ 所在：出口2丁目8 光善寺裏庭（民間所有） 幹周：5.37 m 高さ：26.0 m 備考： 【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	

表 20 重要な樹木の調査結果(7)

重要な樹木	写真
No. 117 ムクノキ 所在：枚方上之町（民間所有） 幹周：5.20 m 高さ：20.5 m 備考：府天然記念物説明看板 【第3回調査時（平成13年）の状況】 樹勢回復処置済 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	
No. 118 サイカチ 所在：出口2丁目8 光善寺裏庭（民間所有） 幹周：3.50、0.5、1.62 m 高さ：6.5 m 備考：府天然記念物説明看板、二股 【第3回調査時（平成13年）の状況】 やや衰弱 【第5回調査時（平成24年）の状況】 やや衰弱 【第7回調査時（令和5年）の状況】 二股の内1本は中が空洞になっておりやや衰弱、もう1本は概ね良好に生育	
No. 119 クスノキ 所在：片鉾本町15 杉ヶ本神社（民間所有） 幹周：3.43 m 高さ：20.0 m 備考： 【第5回調査時（平成24年）の状況】 良好に生育、第3回調査以降に指定 【第7回調査時（令和5年）の状況】 良好に生育	

表 21 消失済みの重要な樹木

重要な樹木	状況
No. 1 イロハカエデ 所在：不明	【第3回調査時（平成13年）の状況】 宅地化のため消失
No. 4 タマミズキ 所在：穂谷2丁目7 三之宮神社	【第3回調査時（平成13年）の状況】 拝殿新築のため消失
No. 10 コナラ 所在：村野本町29 村野神社 参道入口 （民間所有）	【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 消失
No. 18 キリ 3本 所在：氷室台（民間所有） 備考：貯水池	【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 消失
No. 103 クスノキ 所在：町楠葉（民間所有）	【第3回調査時（平成13年）の状況】 良好に生育 【第5回調査時（平成24年）の状況】 消失
No. 104 クロガネモチ 所在：町楠葉（民間所有）	【第3回調査時（平成13年）の状況】 やや衰弱 【第5回調査時（平成24年）の状況】 消失
No. 105 クスノキ 所在：伊加賀東町	【第3回調査時（平成13年）の状況】 駐車場化により伐採された
No. 109 クロガネモチ 所在：北中振（民間所有）	【第3回調査時（平成13年）の状況】 やや衰弱 【第5回調査時（平成24年）の状況】 消失

オ 孤立林

枚方市に現存する46カ所の孤立林は、人為的な影響との関わりでその成因(残存要因)により、A～Eの5つに類型区分が行われている。各類型の概要について表 22に示す。

表 22 孤立林の成因(残存要因)による類型区分

類型	成因(残存要因)	類型の内容
A: 社寺林タイプ	宗教的・文化的に残存され担保	社寺林として、宗教的・文化的に保護され古くから残存する森林。担保性は高い。
B: 公園・学校緑地タイプ	公園や学校の緑地として残存・造成され担保	公園や学校の緑地として残存された森林もしくは公園新設に伴い造成された森林。担保性は高い。
C: 協定緑地タイプ	協定緑地など制度的に残存され担保	緑地保全条例や緑化基準のために工場の敷地内緑地などとして残存もしくは造成された森林。担保性は高い。
D: 段丘斜面林タイプ	地形的な側面から開発が抑制され残存	段丘崖の斜面など開発に不向きな地形的要因から開発が抑制され残存された森林。担保性はない。
E: 東部地域タイプ	地形的な側面から開発が抑制され残存	市街地中心部から離れた地理的な条件の悪さから開発が遅れたことにより残存した孤立状の森林。まとまった東部地域周辺の森林域との接点となる孤立林でもあり、その存在は重要であるが、近年では開発が進み、狭小化、断片化が進んでいる。担保性はない。

■ 孤立林

- ◆ 現存
- ◆ 現存(詳細調査実施)
- ◆ 消失(過年度)
- ◆ 消失(本年度)

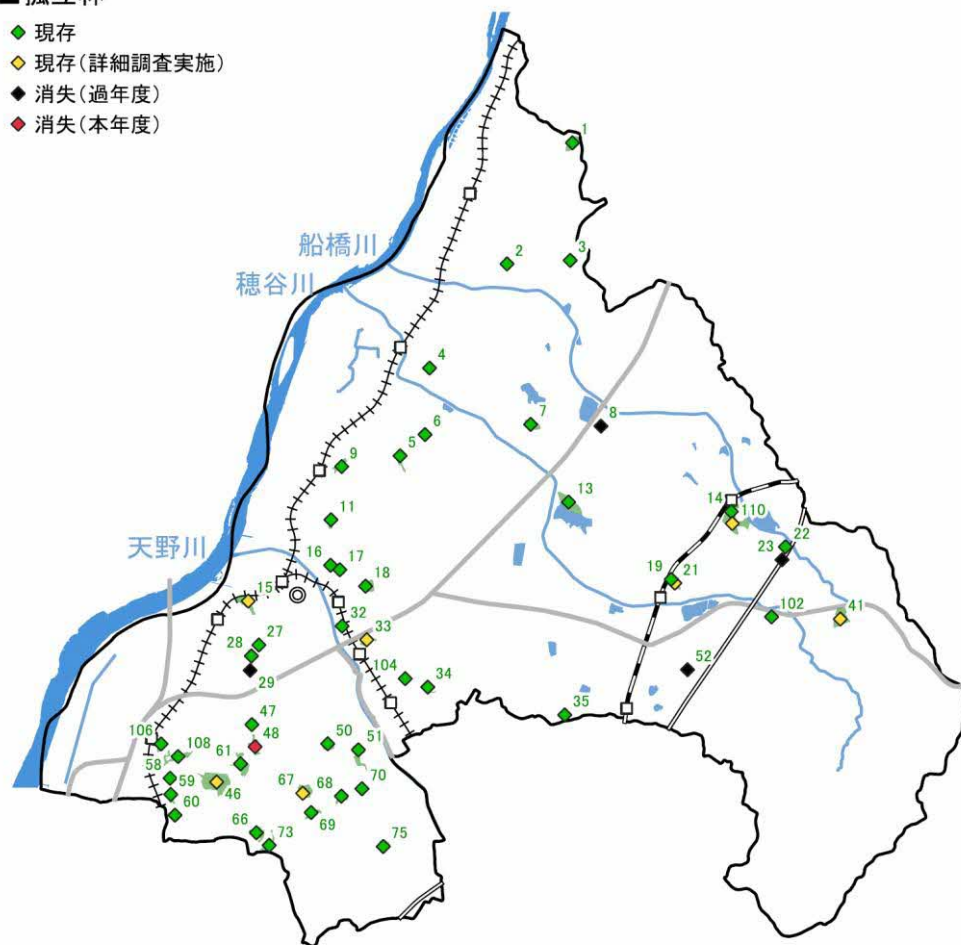


図 7 孤立林の位置

現存する46ヵ所の孤立林において、森林の概況を把握するため、対象森林の階層区分を行い、各階層ごとに優占種と階層全体の被植率を記録した結果を表 23に示す。第7回調査において新たに「No. 48 元・パナソニック」の消失を確認した。7ヵ所の代表的な孤立林（意賀美神社、藤阪天神、星ヶ丘公園、氷室台、香里園桜木町、香里ヶ丘中央公園、長尾菅原神社）で植物相調査、鳥類調査、陸生昆虫調査を行った（結果は「4 （1）各孤立林の自然環境」に後述）。

表 23 孤立林の概況調査結果

番号	名称	類型 区分	第7回調査		高木層			亜高木層			低木層			草本層			過年度の詳細調査			樹林の健全性チェック					備考
			調査日	詳細調査	高さ(m)	被植度 (%)	優占種	高さ(m)	被植度 (%)	優占種	高さ(m)	被植度 (%)	優占種	高さ(m)	被植度 (%)	優占種	第3回	第5回	第6回	クズの繁茂	タケの侵入	シュロの 生育	外来植物の 繁茂	人為圧に よる荒廃	
1	交野天神社	A	11月22日		23	70	アラカシ	12	40	アラカシ	5	30	アラカシ	1	1	アラカシ				－	○	○	－	－	林内所々にギャップがある
2	二ノ宮神社	A	11月22日		32	70	クスノキ	15	40	アラカシ	5	5	サカキ	0.5	5	アラカシ		○		－	－	○	－	－	台風で倒れた高木が処理されていた
3	楠葉面取町	D	11月22日		17	90	モウソウチク	10	5	アラカシ	4	5	サカキ	1.5	5	ネザサ				○	－	－	－	－	林内は荒れている
4	大阪歯科大学	B	11月26日		18	70	クスノキ	12	30	アラカシ	－	－	－	0.3	5	イネ科sp				－	－	－	－	○	林床はきれいに草刈りが行われている
5	小松製作所	C	11月26日		－	－	クスノキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	○	－	－	－	立入禁止。樹林の約40%が伐採されていた
6	牧野車塚古墳	A	11月26日		28	70	コナラ	15	40	コナラ	5	20	アラカシ	1	40	ネザサ				－	－	－	－	－	
7	日置天神社	A	11月22日		20	20	クスノキ	10	10	アラカシ	3	10	サカキ	0.5	1	ネザサ				－	○	－	○	○	立入禁止。樹木の本数が減少した
8	招提大谷	D	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	消失(2017年調査)
9	御殿山神社	A	11月16日		20	70	アベマキ	10	40	アラカシ	5	30	アラカシ	1	5	ネザサ	○			○	○	○	－	○	
11	御殿山段丘崖	D	11月16日		22	80	コナラ	－	－	不明	－	－	不明	－	－	ネザサ				○	○	○	－	－	立入禁止
13	山田池公園春日山	B	11月26日		28	90	コナラ	15	40	ヤマザクラ	5	20	ネズミモチ	0.8	30	ベニシダ				－	－	○	－	－	立入禁止
14	正俊寺	A	11月22日		17	95	スギ	－	－	－	2	40	アジサイ	0.5	1	ネザサ				－	－	○	－	○	林床にアジサイが植栽される
15	意賀美神社	A	11月14日	○	23	80	クスノキ	15	40	アラカシ	5	30	サカキ	1	5	ネザサ	○		○	○	○	○	－	－	シュロの侵入が多い
16	真光寺・浄蓮寺墓地	A	11月16日		15	40	エノキ	12	60	アラカシ	4	30	ヤブニツケイ	1	30	ネザサ				－	○	○	－	－	高木が数本伐採されていた
17	啓光学園	B	11月16日		22	90	クヌギ	15	20	ムクノキ	6	40	アラカシ	1	30	ネザサ				○	○	○	○	－	立入禁止。シンジュが数本生えていた
18	百済寺跡	A	11月16日		20	10	クスノキ	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	樹木は神社の周りのみに残る
19	藤阪菅原神社	A	11月22日		23	80	コナラ	12	30	アラカシ	4	40	アラカシ	1	10	ネザサ		○		－	－	○	－	○	高木の一部が伐採されていた
21	藤阪天神	E	11月22日	○	14	70	アカマツ	8	20	コナラ	4	30	アカメガシワ	1	20	ネザサ	○	○		－	－	－	－	－	
22	長尾台亀谷公園	B	11月26日		24	40	コナラ	14	30	コナラ	4	5	ヒサカキ	1	60	ネザサ				○	－	○	－	－	立ち枯れ木がみられた
23	長尾台3	E	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	消失(2012年調査)
27	坊主池公園	B	11月12日		20	80	コナラ	12	30	アラカシ	5	40	アラカシ	1	5	ネザサ				－	○	－	－	－	一部の樹木が伐採されていた
28	元・東京海上火災寮	D	11月12日		18	90	コナラ	12	20	アラカシ	6	40	イヌビワ	1.2	40	ネザサ				○	－	－	○	－	立入禁止
29	鷹塚山	D	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	消失(2012年調査)
32	禁野車塚古墳	A	11月16日		20	70	アベマキ	12	60	アラカシ	4	5	ヒサカキ	1.5	70	ネザサ				－	－	○	－	○	シュロの侵入が多い
33	星ヶ丘公園	B	11月16日	○	24	60	アベマキ	15	30	アラカシ	5	30	ヒサカキ	1	20	ネザサ			○	－	○	○	－	－	マダケの侵入がみられた
34	村野神社	A	11月16日		22	80	アラカシ	12	50	アラカシ	5	50	アラカシ	1	5	ネザサ	○			－	－	○	－	－	シュロの侵入が多い
35	春日神社	A	11月22日		25	70	クスノキ	12	20	ヒノキ	6	20	サカキ	1	10	ツツブキ	○			－	－	○	－	○	園芸植物の植栽が多い
41	氷室台	E	11月26日	○	18	70	コナラ	12	30	アラカシ	4	40	ヒサカキ	1.5	20	ネザサ	○		○	－	○	－	－	－	
46	香里園桜木町	D	11月12日	○	24	30	コナラ	15	70	モウソウチク	4	30	アラカシ	1	20	ネザサ			○	○	○	○	－	－	竹林内は比較的管理されている
47	パナソニックアリーナ南	C	11月12日		18	80	コナラ	8	40	アラカシ	－	－	－	1	50	ネザサ				－	○	－	－	－	立入禁止
48	元・パナソニック	C	11月12日		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	消失(2023年調査)
50	山田神社	A	11月14日		23	60	アラカシ	12	30	アラカシ	5	20	サカキ	1	10	ネザサ	○			○	－	○	－	－	南側の樹林の一部が伐採されていた
51	桑ヶ谷公園	B	11月14日		17	70	コナラ	10	40	アラカシ	4	30	アラカシ	1	20	ネザサ				○	○	○	－	○	－
52	津田山手	E	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	消失(2012年調査)
58	蹉跎天満宮	A	11月12日		21	80	アベマキ	12	40	アラカシ	5	30	カナメモチ	1	5	ネザサ				－	－	－	－	－	－
59	南中振	D	11月12日		20	80	アベマキ	12	50	アラカシ	5	30	アラカシ	1	3	アラカシ			○	－	○	○	－	－	タケの侵入が目立つ
60	香里園山手町	D	11月12日		8	50	モウソウチク	－	－	－	－	－	－	－	－	－				－	－	－	－	－	伐採整備されていた。立入禁止
61	香里丘高校	B	11月12日		20	80	コナラ	12	30	アラカシ	4	40	ヒサカキ	1.2	50	ネザサ				○	－	○	－	－	立入禁止
66	香里ヶ丘南公園	B	11月14日		18	60	コナラ	8	40	コナラ	4	30	シャシャンボ	1.2	20	ネザサ				－	－	－	－	○	枝打ちなどの管理が行われていた
67	香里ヶ丘中央公園	B	11月14日	○	18	30	アカマツ	10	40	アラカシ	4	20	シャシャンボ	0.5	20	ネザサ			○	－	－	－	○	○	メリケンカルカヤが目立つ
68	香里ヶ丘東公園	B	11月14日		18	60	コナラ	10	40	アラカシ	4	30	カナメモチ	1	5	ネザサ				－	－	－	－	－	
69	観音山公園	B	11月14日		14	70	アカマツ	8	30	コナラ	4	40	カナメモチ	1	60	ネザサ				－	－	○	－	○	枝打ちなどの管理が行われていた
70	香里団地	B	11月14日		18	70	アベマキ	12	30	アラカシ	4	5	ネズミモチ	0.7	20	ネザサ				－	－	－	－	－	高木層はアベマキが優占する
73	香里小学校	B	11月14日		15	80	コナラ	8	50	アラカシ	4	30	シャシャンボ	0.5	10	ネザサ				－	－	○	－	－	立入禁止
75	茄子作春日神社	A	11月14日		22	80	アラカシ	15	20	アラカシ	5	20	サカキ	0.7	1	ベニシダ				－	○	○	－	－	林内に立ち枯れ木がみられる
102	津田東	E	11月26日		15	90	モウソウチク	－	－	－	4	1	アラカシ	－	－	－	○			－	○	○	－	－	竹林内は荒れている
104	印田町ふれあい公園	D	11月16日		22	20	コナラ	18	60	モウソウチク	4	20	アラカシ	0.5	5	フユイチゴ				－	－	○	－	－	樹林の一部が伐採されていた
106	楽寿荘	D	11月12日		22	80	クスノキ	12	40	ムクノキ	5	40	ヤブツバキ	0.8	5	フモトシダ			○	－	－	○	－	－	
108	大阪府立いちりつ高校	B	11月12日		17	30	アラカシ	12	70	モウソウチク	3	30	アラカシ	1	5	ネザサ				○	○	○	－	－	竹林内は荒れている
110	長尾菅原神社	A	11月22日	○	24	80	コジイ	12	30	アラカシ	6	40	サカキ	0.5	1	ネザサ			○	－	－	－	－	－	コジイの太木が目立つ

赤色網掛け部は前回調査から変化があった箇所を示し、灰色網掛け部は消失した孤立林を示す。

(2) 哺乳類

第7回枚方市自然環境調査の結果、地区全体で10科14種の哺乳類を確認した。

確認種の内、カヤネズミ、ホンドギツネ、アナグマの計3種がレッドリストに記載されている重要種であった。

カヤネズミは穂谷、尊延寺、淀川、天野川のヨシ原で巣（古巣を含む）が確認された。

特定外来生物に指定されている確認種はヌートリアとアライグマの2種であり、ほぼ全調査地区で確認された。ヌートリアは特によく目撃され、各河川や山田池公園において親子で行動する姿が目撃された。

また、表中には存在しないが、地元住民から野村北町においてニホンジカが出現したとの情報が市役所に寄せられている。

表 24 哺乳類確認種一覧

No.	分類	種名	調査地区							レッドデータブック文庫		外来種
			穂谷	尊延寺	淀川	天野川	長尾荒阪	藤阪	その他	環境省 RL	大阪府 RL	
1	ネズミ目	リス科	ニホンリス	成食								
2		ネズミ科	カヤネズミ	巣	巣	巣					NT	
3		ネズミ科の一種	足									
4	ウサギ目	ウサギ科	ニホンノウサギ	糞足耕	糞							
5	モグラ目	モグラ科	ヒミズ	屍								
6		モグラ科の一種	コウベモグラ		屍							
7	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	足爪糞	足爪糞	足糞	足糞	足糞	足爪糞			特定外来
8		イヌ科	タヌキ	足	足糞	足	足	足	足糞			
9		ホンドギツネ	足				足				CR+EN	
10		イタチ科	ホンドテン	糞	糞	足糞	糞					
11		アナグマ	足糞		足						NT	
12		チョウセンイタチ			目屍							外来
13		イタチ属の一種	足糞	足糞	足糞	足糞	足糞	足糞				
		ジャコウネコ科	ハクビシン	足	糞		足	足				外来
14	ウシ目	イノシシ科	イノシシ	屍食 擦耕足糞道	耕			食道				
種数			12種	9種	8種	7種	8種	6種	1種	0種	3種	4種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃, 幼:幼体の目撃, 屍:死骸, 糞:糞痕, 食:食痕, 爪:爪痕, 足:足跡, 擦:こすり付け痕, 耕:土耕痕, 道:獣道, 巣:巣/古巣, 塚:モグラ塚, 坑:モグラ坑道

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足



ヌートリア
(船橋川・2022/09/16)



カヤネズミの古巣
(淀川・2022/11/05)

(3) 鳥類

第7回枚方市自然環境調査の結果、地区全体で38科89種の鳥類を確認した。調査地区別では、穂谷が39種、尊延寺が40種、淀川が55種、天野川が43種、船橋川が36種、穂谷川・山田池公園が53種、市内の溜池が18種、孤立林が21種となっている。

確認種の内、オシドリやヒクイナなどの計20種がレッドリストに記載されている重要種であった。重要種の多くを占める猛禽類は、冬季の淀川河川敷や春と秋の渡り時期の穂谷国見山で確認された。

外来種は特定外来生物に指定されているソウシチョウが穂谷や孤立林で確認された。また、近年近畿・中国地方で分布が拡大している中国大陸等原産のムクドリ科の外来種ハッカチョウが天野川で確認された。



セッカ
(船橋川・2022/09/16)



ハヤブサ
(淀川・2023/01/13)



オオタカ
(天野川・2023/01/13)



チョウゲンボウ
(尊延寺・2023/01/17)



ヒバリ
(船橋川・2023/06/13)



アオサギ
(船橋川・2023/06/13)

表 25 鳥類確認種一覧

No.	分類	種名	調査地区							レッドデータブック文庫				
			穂谷・ 国見山	尊延寺・ 氷室台	淀川	天野川	船橋川	穂谷川・ 山田池公園	市内溜池	孤立林	環境省	大阪府	外来種	
1	カモ目	カモ科	オシドリ					●			DD			
2		ハシビロガモ			○		○		○					
3		オカヨシガモ			○●	○●								
4		ヨシガモ				○								
5		ヒドリガモ			●	○●	○							
6		カルガモ		○●	○●	○●	○	○●	○					
7		マガモ				○●		○●	○					
8		コガモ			●	○●	○	○	○					
9		ホシハジロ			○●			○●	○					
10		キンクロハジロ			○●			●	○					
11		ミコアイサ					○	○●	○					
12			カワアイサ			●								
13	キジ目	キジ科	ヤマドリ	○										
14		キジ	○	○●	○●									
15		コジュケイ	○	○●									外来	
16	カッコウ目	カッコウ科	ツツドリ			○						NT		
17	ハト目	ハト科	ドバト	●	○	○●	○●	○	○●	○			逸出	
18		キジバト	○●	○	○●	○●	○	○●		○				
19	ツル目	クイナ科	バン				●							
20		オオバン			○●	○●	○	●	○					
21		ヒクイナ						●			NT	VU		
22	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ					○	○●	○				
23		カンムリカイツブリ			●			○	○●					
24	チドリ目	チドリ科	ケリ		○		○	○			DD	NT		
25		コチドリ		●			○					NT		
26		シギ科	イソシギ			○●	○●	○	○●	○			NT	
27		カモメ科	ユリカモメ			●								
28	カツオドリ目	ウ科	カワウ			○●	○●	○	○●	○				
29	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ						●	○				
30		ササゴイ				※								
31		アオサギ	○	○	○●	○	○	○●	○					
32		ダイサギ		○●	○●	○	○	○●		○				
33		コサギ			○●	○●	○	○●	○					
34		ミサゴ科	ミサゴ			○●	○●					NT		
35		タカ科	ツミ	●									VU	
36			ハイタカ	●	●	●	●		●			NT		
37		オオタカ	●		●	○		○●			NT	NT		
38		トビ	●		○●			○●						
39		サシバ	●								VU	CR+EN		
40		ノスリ	●		●					○		NT		
41	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ									NT		
42	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		○●	○●	○●	○	○●	○				
43	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○●	○●	○●		○	○●		○			
44			アオゲラ	○										
45	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ		○		○			○				
46			ハヤブサ			○●						VU		
47	スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	○										
48		モズ科	モズ	○●	○●	○●	○●	○	○●	○				
49		カラス科	ハシボソガラス	○●	○	○●	○●	○	○●					
50			ハシブトガラス	○●	○	○●	○●	○	○●		○			
51		シジュウカラ科	ヤマガラス	○●	●				●					
52			シジュウカラ	○●	○●	○●		○	○●		○			
53		ヒバリ科	ヒバリ	○	○●		○	○	○				NT	
54		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○●	○●	○●	○●	○	○●		○			
55		ツバメ科	ツバメ	○●	○●	○	○	○			○			
56			イワツバメ		●	●	○●		○					
57			コシアカツバメ						●				NT	
58		ウグイス科	ウグイス	○●	○●	○●	○		○●		○			
59		エナガ科	エナガ	○●	○●	○●	○		○●		○			
60		ムシクイ科	センダイムシクイ	○									NT	
61		ヨシキリ科	オオヨシキリ			○			○●				NT	
62		セッカ科	セッカ										NT	
63		ガビチョウ科	ソウシチョウ	○●					○		○			特定外来
64		メジロ科	メジロ	○●	○●	○●			○●		○			
65		ムクドリ科	ムクドリ		○●	○●	○●	○●	○		○			
66			ハッカチョウ				●							外来
67		ツグミ科	シロハラ	○●	○●	○●		○	○●		○			
68			アカハラ		○									
69			ツグミ		○●	○●	●		○●					
70			ハチジョウツグミ						●					
71		ヒタキ科	エンビタキ		○									
72			コサメビタキ	●									VU	
73			キビタキ		○						○			
74			ルリビタキ	○										
75			ジョウビタキ		○	●			○●					
76			イソヒヨドリ	○●	○●	○●	○●	○						
77		スズメ科	スズメ	○	○●	○●	○●	○	○●		○			
78		セキレイ科	キセキレイ		○●	○●	○●	○	○●					
79			ハクセキレイ		○	○●	○●	○	○●		○			
80			セグロセキレイ	●	○	○●	○●	○	○●					
81			タヒバリ			○●								
82		アトリ科	アトリ	●		○								
83			シメ			○●			○●					
84			イカル	●		○								
85			ベニマシコ						○					
86			カワラヒワ	○●	○	○●	○●	○	○		○			
87		ホオジロ科	ホオジロ	○●	○●	○●	○●		○●					
88			アオジ	○	○	●	●		○●		○			
89			クロジ											
種数			39種	40種	55種	43種	36種	53種	18種	21種	8種	16種	4種	

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認，※：別分門の調査時に確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，

NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

(4) 爬虫類・両生類

第7回枚方市自然環境調査の結果、8科12種の爬虫類、4科7種の両生類を確認した。

確認種の内、ニホンイシガメ、ニホンスッポン、ヒバカリ、ニホンアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエルの計6種がレッドリストに記載されている重要種であった。

特定外来生物に指定されている確認種はミシシippアカミミガメとウシガエルの2種であり、ほぼ全調査地区で確認された。

表 26 爬虫類・両生類確認種一覧

No.	分類		種名	調査地区							レッドデータブック文献		外来種
				穂谷	尊延寺	淀川	天野川	長尾 荒阪	藤阪	その他	環境省 RL	大阪府 RL	
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ	成	成		成	成	成				
2			ニホンイシガメ			成	成			NT	NT		
3			ウンキウ（雑種）	成									
4		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	成		成	成	成				特定外来	
5		スッポン科	ニホンスッポン						成	DD			
6	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	糞				糞	糞	成			
7		トカゲ科	ニホントカゲ	成					成				
8		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	成	成				成				
9		ナミヘビ科	アオダイショウ							成			
10			シマヘビ				幼						
11			ヒバカリ	成	屍					成屍		VU	
12			クサリヘビ科	ニホンマムシ	成屍								
爬虫類種数				8種	3種	1種	4種	3種	5種	4種	2種	2種	1種
1	無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル	成声				成幼	声				
2		アカガエル科	ニホンアカガエル	幼				成				VU	
3			ウシガエル	成幼声	成声	声	幼	成幼 屍声	成声				特定外来
4			ツチガエル		成								
5			トノサマガエル	成	成						NT	NT	
6		ヌマガエル科	ヌマガエル	成	成	成	成	成幼	成	成			
7		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	成						成		NT	
両生類種数				6種	4種	2種	2種	4種	3種	2種	1種	3種	1種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃, 幼:幼体の目撃, 屍:死骸, 糞:糞痕, 声:鳴き声

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類,

NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足



シマヘビ
(天野川・2022/11/05)



ヒバカリ
(星ヶ丘公園・2023/07/06)



ニホントカゲ
(穂谷・2023/07/31)



ニホンスッポンとミシシippアカミガメ
(船橋川・2023/06/13)



ウシガエル
(尊延寺・2023/04/21)



シュレーゲルアオガエル
(氷室台・2023/08/01)

(5) 昆虫類(陸生昆虫・水生昆虫)

第7回枚方市自然環境調査の結果、地区全体で203科878種の昆虫を確認した。陸生昆虫の調査地区別では、穂谷が352種、尊延寺が288種、藤阪・山田池公園が220種、淀川河川敷が118種、孤立林が434種となっている。水生昆虫の確認種はハエ目やトンボ目を中心に計103種であった。

確認種の内、ホソミオツネントンボやオオムラサキなど計27種がレッドリストに記載されている重要種であった。重要種27種の内半数近い11種はトンボであり、成虫・幼虫（ヤゴ）問わず、主に水場の近くで確認された。

ヒラタトガリカメムシは環境省のレッドリストで準絶滅危惧種（NT）に指定されている種であるが、本来国内では八重山諸島でのみ生息する種である。近年になり本州～九州に分布を拡大している国内外来種である。

国蝶にも指定されているオオムラサキは穂谷地区において樹液に集まっているのを確認した。

外来種は、クロゴキブリやアメリカシロヒトリなど計24種が確認された。この内特定外来生物に指定されている種はなかった。

表 27 昆虫類調査確認種内訳

分類	陸生昆虫										水生昆虫調査		その他		合計	
	穂谷		尊延寺		藤阪・山田池公園		淀川河川敷		孤立林		科	種	科	種	科	種
	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種						
カゲロウ目	1	1	1	1					1	1	5	11			5	12
トンボ目	5	16	6	16	7	16	2	3	5	10	8	21			9	39
カワゲラ目			1	1							2	2			3	3
ハサミムシ目									1	1					1	1
ナナフシ目	1	4			1	2			1	1					1	4
バッタ目	12	22	11	27	9	20	5	6	10	20	1	2			14	45
ゴキブリ目			1	1	2	2	1	1	1	1					2	2
シロアリ目	1	1							1	1					1	1
カマキリ目	1	4	1	2	1	2	1	1	1	2					1	4
カメムシ目	22	62	22	61	25	48	20	27	29	92	8	19			42	159
ハチ目	12	61	13	50	8	33	9	16	17	79					21	129
アミメカゲロウ目	4	5	1	1	3	6	1	2	2	6					4	14
ラクダムシ目									1	1					1	1
コウチュウ目	21	92	20	73	18	52	14	39	30	128	6	11	1	2	41	261
シリアゲムシ目	1	1	1	1											1	1
ハエ目	9	23	7	11	7	12	2	3	13	31	6	29			21	78
チョウ目	18	59	16	43	12	26	12	20	20	60	2	2	1	1	28	116
トビケラ目	1	1			1	1					6	6			7	8
合計	109	352	101	288	94	220	67	118	133	434	44	103	2	3	203	878



ホソミオツネントンボ
(尊延寺・2023/05/10)



昆虫類重要種(一部)

表 28 昆虫類の重要種一覧

No.	分類		種名	調査地区												レッドデータブック文庫	
				陸生昆虫調査					水生昆虫調査							環境省 RL	大阪府 RL
				穂谷	尊延寺	山藤田池・公園	淀川河川敷	孤立林	天野川	穂谷川	船橋川	淀川ワンド	水路溜池群	尊延寺	王仁公園・山田池		
1	トンボ目	アオイトトンボ科	ホソミオツネイトンボ		○												NT
2		イトトンボ科	ホソミイトンボ		○												NT
3		サナエトンボ科	キイトンボ		○												NT
4			キイロサナエ						※								NT
5			ウチワヤンマ			●		○									NT
6			タバサナエ							●							NT
7			オグマサナエ			●						●					NT
8		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ		○												NT
9		エゾトンボ科	キイロヤマトンボ									○				NT	CR+EN
10		トンボ科	ナツアカネ			●											NT
11			ヒメアカネ		○												NT
12	カメムシ目	カメムシ科	ヒラタトガリカメムシ(注1)			●		○								NT	
13		アメンボ科	ヤスマツアメンボ			●								○●		NT	
14		コオイムシ科	コオイムシ		○					○●	※	○	●				NT
15		タイコウチ科	ミズカマキリ							●				●			NT
16	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ		●											NT	
17	ハエ目	クサアブ科	ネグロクサアブ		●											DD	
18	コウチュウ目	ハンミョウ科	ナミハンミョウ	○●	○												NT
19		ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ								○	○				NT	VU
20		ガムシ科	コガムシ		○			○								DD	NT
21			ガムシ							○	※					NT	NT
22		コガネムシ科	ドウガネブイブイ		●												NT
23		ホタル科	ハイケボタル										●				NT
24		テントウムシ科	ハラグロオオテントウ			●											NT
25	ハチ目	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ	○	○											DD	
26			モンズズメバチ		●		●									DD	
27		ドロバチモドキ科	キアシハナダガバチモドキ						○								VU
種数				6種	9種	6種	1種	4種	1種	4種	3種	3種	3種	2種	0種	14種	22種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認，※：別分門の調査時に確認

(注1) ヒラタトガリカメムシは環境省 RL で NT に指定されているが、本来国内では八重山諸島でのみ生息する種であり、確認された個体は外来のものと考えられる。

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，

NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

表 29 昆虫類の外来種一覧

No.	分類		種名	調査地区					外来種
				穂谷	尊延寺	山藤田池・公園	淀川河川敷	孤立林	
1	ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ			●			外来
2	バッタ目	マツムシ科	カンタン	○		●			外来
3			アオマツムシ	○	●				外来
4	カメムシ目	ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ	●	○●	●	●		外来
5		サシガメ科	ヨコツナサシガメ	※		●			外来
6		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ		○	●	●	○	外来
7			ヘクソカズラグンバイ		○			○	外来
8		カメムシ科	キマダラカメムシ	○		●	●	○	外来
9	チョウ目	ミノガ科	オオミノガ	○				○	外来
10		イラガ科	ヒロヘリアオイラガ		●				外来
11		マダラガ科	タケノホソクロバ					○	外来
12		ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ	○●	○●	●		○	外来
13	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ			●	●		外来
14	コウチュウ目	コガネムシ科	シロテンハナムグリ					○	外来
15		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ	●		●		○	外来
16			クモガタテントウ		○				外来
17		カミキリムシ科	ラミーカミキリ			※		○	外来
18			キボシカミキリ	●					外来
19		ハムシ科	ブタクサハムシ			●			外来
20		ゾウムシ科	アルファルファタコゾウムシ					○	外来
21	ハチ目	クモバチ科	ツマアカクモバチ		○				外来
22		アナバチ科	アメリカジガバチ	○				○	外来
23		ミツバチ科	セイヨウミツバチ				●		外来
24			タイワンタケクマバチ			●		○	外来
種数				10種	8種	13種	5種	12種	24種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認，※：別分門の調査時に確認

(6) 魚類・水生生物

第7回枚方市自然環境調査の結果、地区全体で11科24種の魚類を確認した。調査地区別では、天野川が16種、穂谷川が18種、船橋川が15種、淀川河川敷公園のワンドが6種、市街地の水路が8種、尊延寺の水路溜池が2種、山田池・地蔵池・王仁公園が12種となっている。

確認種の内、タモロコ、ドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、ウキゴリ、ビリンゴの計7種がレッドリストに記載されている重要種であった。

外来種は特定外来生物のブルーギルやオオクチバス、カダヤシをはじめ、計6種確認された。

表 30 魚類確認種一覧

No.	分類	種名	調査地区								レッドデータブック文庫		
			天 野 川	穂 谷 川	船 橋 川	淀 川 ド	市 街 地 水 路	尊 延 寺 池 水 路	山 田 池 ・ 地 蔵 池 ・ 王 仁 公 園	環境省	大阪府	外来種	
1	コイ目	コイ科	コイ（型不明）	○●		○		○		○			
2			ギンブナ				○						
－			フナ属の一種		○●	○●		○		○			
3			タイリクバラタナゴ					○				外来	
4			オイカワ	○●	○●	○	○						
5			カワムツ	●	○●	●							
6			モツゴ	○●	○●	○●		○		○			
7			タモロコ	○●	○●	○		○		○	NT		
8			カマツカ	○●	○								
9			コウライニゴイ	○●									
10			コウライモロコ		●								
－		コイ科の一種	○										
11	ドジョウ科	ドジョウ	○●	○●	○●	○		○●	○	NT	VU		
12	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	●	○						NT		
13	サケ目	アユ科	アユ	○●							NT		
14	タウナギ目	タウナギ科	タウナギ（本土産）	○	●			○					
15	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	○●	○●	○	○	○		○		特定外来	
16	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	○●	○●	○●	○	○	○	○	VU	VU	
－		メダカ（飼育品種）	●	●								（逸出）	
17	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル			○				○		特定外来	
18			オオクチバス	○●	○	○	○					特定外来	
19			ドンコ科	ドンコ	○●	○●	○●	○		○			
20		ハゼ科	ヌマチチブ		○	○							
21			カワヨシノボリ	○●		○							
－			ヨシノボリ属の一種	○●	○●	○●				○			
22			ウキゴリ		●					○	NT		
23			ビリンゴ			○					DD		
24	タイワンドジョウ科	カムルチー		●					○			外来	
種数			16種	18種	15種	6種	8種	2種	12種	2種	7種	6種	

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足



ドジョウ
(天野川・2023/04/17)



オイカワ
(天野川・2023/07/11)

水生生物（水生昆虫は前項で集計済み、重複を避けるため本項では除外）は、貝類や甲殻類など27科41種を確認した。

確認種の内、オオタニシ、モノアラガイ、ナガオカモノアラガイの計3種がレッドリストに記載されている重要種であった。

外来種は特定外来生物のアメリカザリガニをはじめ、計5種確認された。

表 31 水生生物（昆虫類を除く）確認種一覧

No.	分類	種名	調査地区								レッドデータブック文庫		外来種	
			天野川	穂谷川	船橋川	淀川 ド	水路 市街地	水 路 延 池	王 地 山 仁 蔵 田 公 池 園	環境省	大阪府			
1	有棒状体綱	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	○	○			○					外来	
2	有針綱	マミズヒモムシ科	ミミズヒモムシ属の一種	○										
3	ハリガネムシ綱	ー	ハリガネムシ目の一種	●	○									
4	腹足綱	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ		○●	●		○					外来	
5		タニシ科	オオタニシ			●						VU		
6			ヒメタニシ	●	○	○●	○	○		○				
7		カワニナ科	カワニナ	●	○●	○●	○	○	●	○				
8			チリメンカワニナ		○	○	○	○		○				
9		カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサガイ	○	○									
10		モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	○	○	○								
11			モノアラガイ			○					NT	CR+EN		
12			モノアラガイ科の一種	○	○●	○			●	○				
13			サカマキガイ科	○●	○●	○●	○	○	●	○				外来
14	二枚貝綱	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ					○			NT			
15		シジミ科	シジミ属の一種	○●	○●	○●	○							
16	ミミズ綱	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科の一種	○	○					○				
17		ミズミミズ科	エラオイミズミミズ							○				
18			エラミミズ	○				○	○					
19			ユリミミズ		○									
20			ミツゲミズミミズ	○										
21			ナミミズミミズ	○	○									
22			ミズミミズ	○										
23			クロオビミズミミズ	○			○							
24			ヨゴレミズミミズ	○	○			○						
25			ミズミズ科の一種	○			○	○		○				
26		ヒモミミズ科	ヤマトヒモミミズ							○				
27	ヒル綱	ツリミミズ科	ツリミミズ科の一種	○										
28		フトミミズ科	フトミミズ科の一種							○				
29		ヒラタビル科	ハバヒロビル		○	○								
30		ヒラタビル科	ヌマビル	○				○						
31		ヘモビル科	ウマビル	●										
32		イシビル科	ナミイシビル		○									
33	軟甲綱		イシビル科の一種	○		○		○		○				
34		マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	○	○		○	○		○			外来	
35		ー	ヨコエビ目の一種	●		●								
36		ミズムシ科	ミズムシ	○	○	○	○	○	○	○				
37		ヌマエビ科	ミズレヌマエビ	○										
38			カワリヌマエビ属の一種	○●	○●	○	○	○	○	○				
39			ヌマエビ	○●	●	○●			●	○				
40		テナガエビ科	テナガエビ			○								
41			スジエビ	○●	○●	○●	○	○	○●	○				
42			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○●	○●	○●	○	○	○●	○			特定外来
43		サワガニ科	サワガニ		○				○					
44		モクズガニ科	モクズガニ	●	○									
45	被喉綱	カラクサコケムシ科	カラクサコケムシ			○								
種数				28種	24種	19種	10種	17種	10種	16種	1種	3種	5種	

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，

NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足



スクミリンゴガイ
(穂谷川・2023/02/20)



サカマキガイ
(船橋川・2023/02/20)

4 とりまとめ及び考察

(1) 各孤立林の自然環境

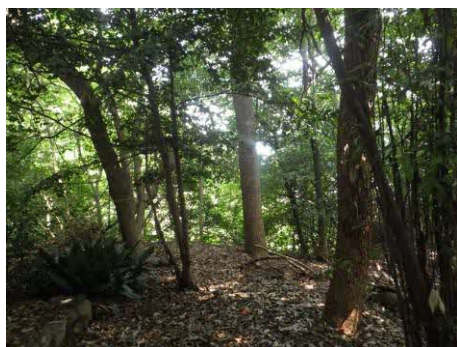
孤立林の詳細調査として植物相、鳥類、陸生昆虫の調査を行った7ヵ所の代表的な孤立林（意賀美神社、藤阪天神、星ヶ丘公園、氷室台、香里園桜木町、香里ヶ丘中央公園、長尾菅原神社）の確認種の概況について以下に示す。

ア 意賀美神社

市街地に残された神社周辺の社叢林。まとまった樹林は主に比較的急な斜面地形上に成立しており、やや大径のクスノキ、アラカシ、アベマキなどが優占している。

表 32 意賀美神社の確認種概況

分類	確認種概況
植物	41科63種 高木：クスノキ、アラカシ、アベマキ 亜高木：ヤブニッケイ、シャシャンボ、ムクノキ 低木：カナメモチ、サカキ、シュロ 草本：ヤブソテツ、ベニシダ、ヤブラン、ヤブミョウガ、ミズヒキ ※林床にアラカシ、クスノキなどの実生がみられる。
鳥類	ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、スズメ 市街地や市街地部の公園等に生息する一般的な種が確認された。
昆虫類	54科127種 トンボ：コヤマトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ チョウ：ゴマダラチョウ、ナガサキアゲハ、シモフリスズメ等 コウチュウ：ヒラタクワガタ、カナブン、ベニカミキリ等 ハチ：タイワンタケクマバチ、セイヨウミツバチ等



林況
(意賀美神社・2023/07/11)



ベニシダ
(意賀美神社・2023/07/11)



ミズヒキ
(意賀美神社・2023/07/11)



コヤマトンボ
(意賀美神社・2023/05/17)

イ 藤阪天神

市街地に残された神社周辺の社叢林。比較的緩やかな台地状の地形に落葉広葉樹を主体とする樹林が広がっている。

表 33 藤阪天神の確認種概況

分類	確認種概況
植物	40科68種 高木：コナラ、クスノキ、ツブラジイ 亜高木：アラカシ、ヤブニッケイ、ヤマハゼ、クロバイ 低木：カナメモチ、ヒサカキ、イヌビワ、アオキ 草本：ベニシダ、ネザサ、ジャノヒゲ ※林縁部に植栽由来のオガタマノキがある。また、コナラやアラカシの実生が多く生育しているほか、林縁部にはモミの実生がみられる。 重要種はニッケイ（逸出個体）が該当
鳥類	キジバト、コゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、スズメ 市街地や市街地部の公園等に生息する一般的な種が確認された。
昆虫類	50科98種 トンボ：ハグロトンボ、シオカラトンボ チョウ：ゴマダラチョウ、コムラサキ、アサマイチモンジ等 コウチュウ：チビクワガタ、カブトムシ、コクロヒメテントウ等 ハチ：タイワンタケクマバチ、クロスズメバチ等



林況
(藤阪天神・2023/07/13)



ニッケイ
(藤阪天神・2023/07/13)



ヤマハゼ
(藤阪天神・2023/07/13)



チビクワガタ
(藤阪天神・2023/05/11)

ウ 星ヶ丘公園

市街地に残された丘陵上に成立する落葉広葉樹林。周辺は住宅地に囲まれ、林内は遊歩道が整備されている。

表 34 星ヶ丘公園の確認種概況

分類	確認種概況
植物	36科60種 高木：コナラ、アベマキ 亜高木：アラカシ、シュロ、ヤブニッケイ、カナメモチ 低木：ヒサカキ、ヤブツバキ 草本：ベニシダ、ジャノヒゲ、トラノオシダ ※シュロが実生から成木まで多くみられる。林床には草本が少なく、コナラとアラカシの実生が多い。
鳥類	キジバト、ハシブトガラス、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ 市街地や市街地部の公園等に生息する一般的な種が確認された。
昆虫類	62科140種 トンボ：シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボ チョウ：ツバメシジミ、オオスカシバ、ドクガ等 コウチュウ：コクワガタ、ノコギリクワガタ、タマムシ等 ハチ：キイロスズメバチ、シロオビハラナガツチバチ等



林況
(星ヶ丘公園・2023/07/11)



シュロ
(星ヶ丘公園・2023/07/11)



クロアゲハ
(星ヶ丘公園・2023/04/27)



カブトムシ
(星ヶ丘公園・2023/08/02)

エ 氷室台

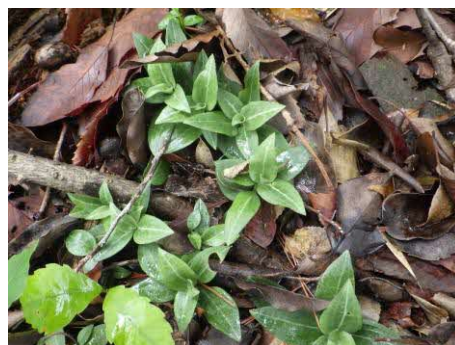
丘陵上に成立する樹林で、コナラなどの広葉樹林が主体だが、ヒノキ植林や竹林も混在している。周囲には耕作地が残り、里山的な様相もみられるが、住宅地化が進んでいる。

表 35 氷室台の確認種概況

分類	確認種概況
植物	31科45種 高木：コナラ、ヒノキ、モウソウチク 亜高木：カナメモチ、シャシチャンボ、アカメガシワ 低木：ヒサカキ、ネジキ 草本：コシダ、ベニシダ、ミヤマウズラ 枚方市の重要な植物であるコ克蘭、カラタチバナの2種が生育
鳥類	キジバト、ハシボソガラス、ヒヨドリ
昆虫類	54科117種 トンボ：ハグロトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ等 チョウ：モンキアゲハ、テングチョウ、マイマイガ等 コウチュウ：コガムシ（重要種）、タマムシ、オバボタル等 ハチ：ヒメスズメバチ、アオスジハナバチ、ムモントックリバチ等



林況
(氷室台・2023/06/15)



ミヤマウズラ
(氷室台・2023/06/15)



アマヅル
(氷室台・2023/06/15)



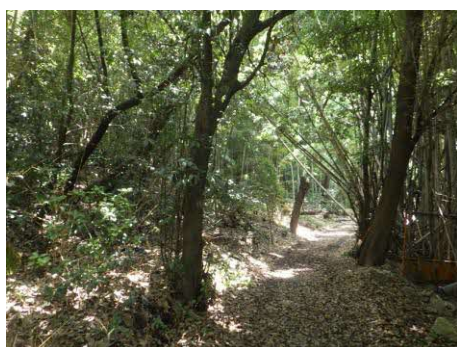
マイマイガ
(氷室台・2023/05/23)

オ 香里園桜木町

住宅地の中に島状に残った樹林地で、大半の範囲は管理された竹林となっている。東側の傾斜地周辺などには広葉樹林がみられる。

表 36 香里園桜木町の確認種概況

分類	確認種概況
植物	56科90種 高木：モウソウチク、コナラ、アベマキ、エノキ 亜高木：カナメモチ、アラカシ 低木：ヒサカキ、ネジキ、マンリョウ 草本：ベニシダ、ヤブソテツ、フモトシダ 枚方市の重要な植物であるコ克蘭が生育
鳥類	キジバト、フクロウ（重要種）、コゲラ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ソウシチョウ（特定外来生物）、シロハラ、キビタキ、スズメ、アオジ、クロジ 他の孤立林に比べてフクロウやクロジなど鬱蒼とした森林を好む種が確認された。
昆虫類	73科131種 トンボ：ウチワヤンマ（重要種）、シオカラトンボ チョウ：オオミノガ、カラスヨトウ、タケノホソクロバ、キマダラセセリ等 コウチュウ：モモブトカミキリモドキ、チビクワガタ、コハンミョウ等 ハチ：ニホンミツバチ、ミカドトックリバチ等



林況
(香里園桜木町・2023/07/11)



ジャノヒゲ
(香里園桜木町・2023/07/11)



フクロウ
(香里園桜木町・2023/07/06)



ビロウドツリアブ
(香里園桜木町・2023/04/17)

カ 香里ヶ丘中央公園

住宅地の中の丘陵地に残った樹林地で、公園として整備されている区画内に位置し、樹木の密度は低い。公園植栽樹から連続して、アカマツやコナラの疎林となっている。

表 37 香里ヶ丘中央公園の確認種概況

分類	確認種概況
植物	28科62種 高木：アカマツ、コナラ、アベマキ、クスノキ 亜高木：カナメモチ、シャシヤンボ、ハリエンジュ 低木：カマツカ、モチツツジ、ネジキ 草本：ネザサ 特定外来生物のナルトサワギクが日当たりの良い疎林の1ヶ所で生育
鳥類	ドバト、キジバト、モズ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ 市街地や市街地部の公園等に生息する一般的な種が確認された。
昆虫類	42科82種 トンボ：オオシオカラトンボ、コシアキトンボ チョウ：ニトベミノガ、モンキチョウ、ウンモンクチバ等 コウチュウ：カナブン、アオドウガネ、ダンドラテントウ等 ハチ：クロオオアリ、アカガネコハナバチ、キムネクマバチ等



林況
(香里ヶ丘中央公園・2023/07/11)



ナルトサワギク
(香里ヶ丘中央公園・2023/07/11)



アカマツ
(香里ヶ丘中央公園・2023/07/11)



ニトベミノガ
(香里ヶ丘中央公園・2023/04/17)

キ 長尾菅原神社

市街地に残された神社周辺の社叢林。比較的緩やかな台地状の地形に常緑広葉樹を主体とする樹林が広がっている。

表 38 長尾菅原神社の確認種概況

分類	確認種概況
植物	43科92種 高木：ツブラジイ、アベマキ、クスノキ、コナラ、ヒノキ 亜高木：カナメモチ、シャシャンボ、ヤブニッケイ 低木：サカキ、ヒサカキ、イヌビワ 草本：ベニシダ、ジャノヒゲ、ミドリハカタカラクサ 枚方市の重要な植物であるコ克蘭、テンダイウヤクの2種が生育
鳥類	ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、スズメ、カワラヒワ、アオジ 市街地や市街地部の公園等に生息する一般的な種が確認された。
昆虫類	71科134種 トンボ：ギンヤンマ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ等 チョウ：クロアゲハ、アサマイチモンジ、ネグロミノガ等 コウチュウ：コガムシ（重要種）、クズノチビタマムシ、ジョウカイボン等 ハチ：キイロスズメバチ、ミカドトックリバチ等



林況
(長尾菅原神社・2023/07/13)



センリョウ
(長尾菅原神社・2023/07/13)



ツブラジイ
(長尾菅原神社・2023/07/13)



オオクチブトゾウムシ
(長尾菅原神社・2023/07/13)

(2) ホタル類の確認状況

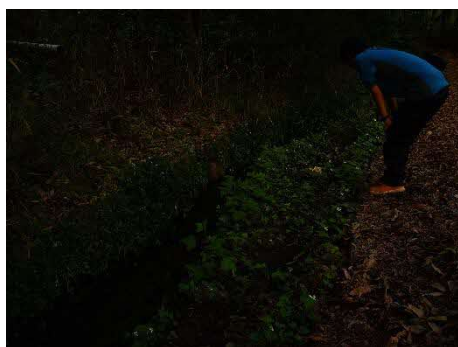
山田池公園において行ったホタル調査（市民調査2回、専門調査1回）の結果を表 39に示す。6月上旬の市民調査はゲンジボタルを、7月上旬の専門調査はヘイケボタルを対象に、それぞれのホタルの発生時期に合わせて調査を実施した。

ゲンジボタルは6月4日に75個体、6月11日に52個体の合計107個体を確認した。

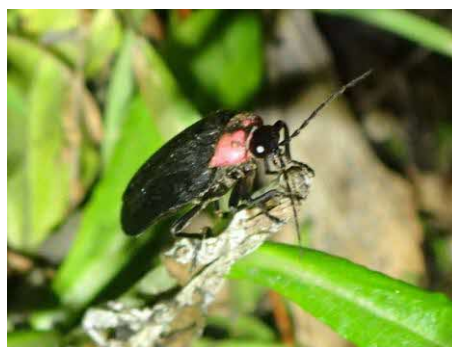
ヘイケボタルは山田池公園においては確認されなかったが、尊延寺地区の水路で実施した水生昆虫の市民調査において、幼虫が確認された。

表 39 ホタルの確認状況

日時	ゲンジボタル		ヘイケボタル	
	調査地点 A	調査地点 B	調査地点 A	調査地点 B
2023年 6月 4日	55	20	0	0
2023年 6月11日	36	16	0	0
2023年 7月 4日	0	0	0	0
合計	107		0	



調査風景
(山田池公園・2023/06/04)



ゲンジボタル
(山田池公園・2023/06/11)

(3) 重要種の一覧

今回の第7回枚方市自然環境調査で確認された重要種の一覧を分類群ごとに表 40～表 46に示す。重要種の種数は植物20種、哺乳類3種、鳥類20種、爬虫類3種、両生類3種、昆虫類27種、魚類7種、その他水生生物3種の合計86種であった。その内、第7回調査の新規確認種は12種であった。

表 40 植物の重要種一覧

No.	分類			種名	第7回 新規種	調査地区										レッドデータブック文献			備考
						穂谷	氷室延寺・	淀川	船橋北川町・	天野川	長尾	山藤田池・王仁	孤立方林西部	環境省	近畿	大阪府			
1	シダ	マツバラン目	マツバラン科	マツバラン			○						●		NT	NT	CR+EN	逸出の可能性有	
2	植物	ウラボシ目	イノモトソウ科	ヒメミズワラビ			○			○●						NT	NT		
3	基部被子	モクレン目	モクレン科	コブシ		○							●			C		逸出	
4	植物	クスノキ目	クスノキ科	ニッケイ									○		NT			逸出	
5	単子葉	オモダカ目	トチカガミ科	ミズオオバコ			○								VU		NT		
6	植物	クサスギカズラ目	ラン科	シラン					○						NT	C	CR+EN	逸出	
7				タシロラン	☆	○●									NT	NT			
8				クロヤツシロラン			○										NT		
9			ヒガンバナ科	ニラ			○	●		○						A		逸出	
10			クサスギカズラ科	ミズギボウシ			○									C	VU		
11		イネ目	カヤツリグサ科	ヤガミスゲ				○●								C	NT		
12				ヤブスゲ	☆								●			A			
13	双子葉	バラ目	バラ科	ユキヤナギ									●			NT	VU	植栽	
14	植物	リンドウ目	キョウチクトウ科	ケテイカカズラ									●			NT		植栽	
15				スズサイコ			○								NT	C	VU		
16		シソ目	モクセイ科	ヒトツバタゴ	☆								●			VU		植栽	
17			オオバコ科	カワヂシャ				○	○						NT	NT	NT		
18			シソ科	コムラサキ					○							C	VU	逸出	
19				ミゾコウジュ				●							NT	C	NT		
20		キク目	キク科	オグルマ			○				○					C	CR+EN		
種数					3種	2種	8種	4種	3種	2種	1種	7種	0種	9種	16種	13種			

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

近 畿：レッドデータブック近畿研究会(2001)「改訂・近畿地方の保護上重要な植物」の掲載種

EX：絶滅種，A：絶滅危惧種 A，B：絶滅危惧種 B，C：絶滅危惧種 C，NT：準絶滅危惧種

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

表 41 哺乳類の重要種一覧

No.	分類	種名	第7回 新規種	調査地区							レッドデータブック文庫	
				穂谷	尊延寺	淀川	天野川	長尾 荒阪	藤阪	その他	環境省 RL	大阪府 RL
1	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ		巢	巢	巢					NT
2	ネコ目	イヌ科	ホンドキツネ		足			足				CR+EN
3		イタチ科	アナグマ	☆	足糞	足						NT
種数				1種	3種	1種	2種	1種	1種	0種	0種	3種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃, 幼:幼体の目撃, 屍:死骸, 糞:糞痕, 食:食痕, 爪:爪痕, 足:足跡, 擦:こすり付け痕,
耕:土耕痕, 道:獣道, 巢:巣, 声:鳴き声, 塚:モグラ塚, 坑:モグラ坑道

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類,
NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

表 42 鳥類の重要種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区							レッドデータブック		
					穂谷・ 国見山	尊延寺・ 氷室台	淀川	天野川	船橋川	穂谷川・ 山田池公園	市内溜池	孤立林	環境省	大阪府
1	カモ目	カモ科	オシドリ							●			DD	
2	カッコー目	カッコー科	ツツドリ				○							NT
3	ツル目	クイナ科	ヒクイナ							●			NT	VU
4	チドリ目	チドリ科	ケリ			○			○				DD	NT
5			コチドリ			●			○	○				NT
6		シギ科	イソシギ				○●	○●	○	○●	○			NT
7	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ				○●	●					NT	
8		タカ科	ツミ		●									VU
9			ハイタカ		●	●	●	●		●			NT	
10			オオタカ		●		●	○		○●			NT	NT
11			トビ		●		○●			○●				
12			サシバ		●								VU	CR+EN
13			ノスリ		●		●					○		NT
14	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ									○		NT
15	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ				○●						VU	
16	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ			○		●	○	○				NT
17		ツバメ科	コシアカツバメ							●				NT
18		ムシクイ科	センダイムシクイ			○								NT
19		ヨシキリ科	オオヨシキリ				○			○●				NT
20		セッカ科	セッカ						○					NT
種数				0種	8種	4種	9種	8種	5種	9種	2種	1種	8種	15種

○: 専門調査で確認, ●: 市民調査隊または公開調査会で確認, ※: 別分門の調査時に確認

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類,
NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

表 43 爬虫類・両生類の重要種一覧

No.	分類	種名	第7回 新規種	調査地区							レッドデータブック文庫	
				穂谷	尊延寺	淀川	天野川	長尾 荒阪	藤阪	その他	環境省 RL	大阪府 RL
1	カメ目	イシガメ科	ニホンイシガメ				成	成			NT	NT
2		スッポン科	ニホンスッポン							成	DD	
3	有鱗目	ナミヘビ科	ヒバカリ	成	屍					成屍		VU
爬虫類種数				0種	1種	1種	0種	1種	0種	2種	2種	2種
1	無尾目	アカガエル科	ニホンアカガエル		幼			成				VU
2			トノサマガエル		成	成					NT	NT
3		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル		成					成		NT
両生類種数				0種	3種	1種	0種	1種	0種	1種	1種	3種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃, 幼:幼体の目撃, 屍:死骸, 糞:糞痕, 食:食痕, 爪:爪痕, 足:足跡, 擦:こすり付け痕,
耕:土耕痕, 道:獣道, 巣:巣, 声:鳴き声, 塚:モグラ塚, 坑:モグラ坑道

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類,
NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

表 44 昆虫類の重要種一覧

No.	分類	種名	第7回 新規種	調査地区												レッドデータブック文庫			
				陸生昆虫調査					水生昆虫調査							環境省 RL	大阪府 RL		
				徳谷	尊延寺	山藤池・公園	淀川河川敷	孤立林	天野川	徳谷川	船橋川	淀川ワンド	水路溜池群	尊延寺王仁公園	山田池・水路			市街地水路	
1	トンボ目	アオイトトンボ科	ホソミオツネトンボ		○												NT		
2		イトトンボ科	ホソミイトトンボ		○												NT		
3		サナエトンボ科	キイトトンボ		○												NT		
4			キイロサナエ					※								NT	NT		
5			ウチワヤンマ			●		○									NT		
6			タバサナエ							●							NT	NT	
7			オグマサナエ			●											NT	VU	
8		ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ		○													NT	
9		エゾトンボ科	キイロヤマトンボ										○				NT	CR+EN	
10		トンボ科	ナツアカネ				●											NT	
11		ヒメアカネ			○												NT		
12	カメムシ目	カメムシ科	ヒラタトガリカメムシ(注1)	☆			●		○								NT		
13		アメンボ科	ヤスマツアメンボ				●										NT		
14		コオイムシ科	コオイムシ			○					○●	※	○		○●			NT	
15		タイコウチ科	ミズカマキリ									●				●		NT	
16	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ		●												NT		
17	ハエ目	クサアブ科	ネグロクサアブ		●												NT		
18	ゴウチュウ目	ハンミョウ科	ナミハンミョウ		○●	○												DD	
19		ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ	☆								○	○				NT		
20		ガムシ科	コガムシ			○			○									VU	
21			ガムシ	☆							○	※						DD	
22		コガネムシ科	ドウガネブイブイ		●													NT	
23		ホタル科	ヘイケボタル												●			NT	
24		テントウムシ科	ハラゴロオオテントウ	☆			●											NT	
25		ハチ目	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ		○	○												DD
26				モンスズメバチ		●			●										DD
27	ドロバチモドキ科		キアシハナダカバチモドキ						○									VU	
種数				4種	6種	9種	6種	1種	4種	1種	4種	3種	3種	3種	2種	0種	14種	22種	

○: 専門調査で確認, ●: 市民調査隊または公開調査会で確認, ※: 別分門の調査時に確認

(注1) ヒラタトガリカメムシは環境省 RL で NT に指定されているが、本来国内では八重山諸島でのみ生息する種であり、確認された個体は外来のものであると考えられる。

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類,
NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

表 45 魚類の重要種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区								レッドデータブック文献	
					天 野 川	穂 谷 川	船 橋 川	淀 川 ド	市 路 街 地	尊 延 寺 池	山 田 池 園	環境省	大阪府	
1	コイ目	コイ科	タモロコ		○●	○●	○		○		○		NT	
2		ドジョウ科	ドジョウ		○●	○●	○●	○		○●	○	NT	VU	
3	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ		●	○							NT	
4	サケ目	アユ科	アユ		○●								NT	
5	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ		○●	○●	○●	○	○	○	○	VU	VU	
6	スズキ目	ハゼ科	ウキゴリ			●					○		NT	
7			ビリンゴ	☆			○						DD	
種数				1種	5種	5種	4種	2種	2種	2種	4種	2種	7種	

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，

NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

表 46 その他水生生物の重要種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区							レッドデータブック文献	
					天野川	穂谷川	船橋川	ワ淀川 ド	水市路 街地	尊延寺 池	王地山 仁蔵公 池園	環境省	大阪府
1	腹足綱	タニシ科	オオタニシ	☆			●						VU
2		モノアラガイ科	モノアラガイ	☆			○					NT	CR+EN
3		オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	☆					○				NT
種数				3種	0種	0種	2種	0種	1種	0種	0種	1種	3種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，

NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

(4) 外来種の一覧

今回の第7回枚方市自然環境調査で確認された外来種の一覧を分類群ごとに表 47～表 56に示す。

外来種の種数は植物212種、哺乳類4種、鳥類4種、両生類1種、爬虫類1種、昆虫類24種、魚類5種、その他水生生物5種の計256種であった。その内、特定外来生物に指定されているのはアレチウリなど計14種であった。第7回調査で新規に確認された外来種は計24種であった。

表 47 植物の外来種一覧 (1/4)

No.	分類	目名	科名	種名	第7回新規種	第7回ふるさといきもの調査								外来種			備考	
						穂谷	尊延寺・氷室台	淀川	船橋川・招提北町	天野川	長尾	藤阪・王仁・山田池	枚方西部孤立林	特定外来生物	生態系被害防止リスト	その他帰化植物		
1	シダ植物	サンショウモ目	サンショウモ科	アイオオアカウキクサ			○					●				緊急対策		
2	基部被	クスノキ目	クスノキ科	ニッケイ								○				○		
3	子植物			テンダイウヤク							○					○		
4	単子葉	オモダカ目	トチカガミ科	オオカナダモ	○											重点対策		
5	植物	ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	ナガイモ				●		●		●				○		
6		ユリ目	ユリ科	シンテップウユリ			○									その他		
7		クサスギカズラ目	アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	○								○		その他			
8				シャガ	○	○									帰化			
9				キシウブ							●				重点対策			
10				アフリカヒメアヤメ	☆							●				○	植栽	
11				キバナニワゼキショウ						●						○		
12				ニワゼキショウ			○		●		●		●				○	
13				オオニワゼキショウ					●		●		●				○	
14				セッカニワゼキショウ					●		●						○	
15		ヒガンバナ科		スノードロップ				○							○			
16				ハタケニラ				○	●		●			○				
17				キバナサフランモドキ	☆				●						○	逸出		
18		ヤシ目	ヤシ科	シュロ		○	○				○	○●	○		国内外来			
19				トウジュロ							●			国内外来				
20		イネ目	イグサ科		コゴメイ				○●							重点対策		
21			カヤツリグサ科		シュロガヤツリ						●					重点対策		
22	メリケンガヤツリ						○●		○●					重点対策				
23	イネ科			ヌカススキ								●			○			
24				ハナヌカススキ					●			●			○			
25				メリケンカルカヤ		○	○	●		○		●	○		その他			
26				ハルガヤ									○		その他			
27				カラスムギ				○●			○	●				○		
28				コバンソウ				●	○							○		
29				ヒメコバンソウ			○	○●		●		●				○		
30				イヌムギ		○	○		○	●	○	●	○			○		
31				ジュズダマ							○					○		
32				カモガヤ									●			産業管理		
33				シナダレスズメガヤ			○	○●	○	○●	○	●				重点対策		
34				コスズメガヤ					●								○	
35				ネズミホソムギ			○			○	●	○	●			産業管理		
36				ネズミムギ					○●		●		●			産業管理		
37	ホソムギ						○								○			
38	ホソヌカキビ												○		○			
39	オオクサキビ							○		○					その他			
40	シマスズメノヒエ				○	○	○●		○●	○	●			その他				
41	キシュウスズメノヒエ						○		○●	○				その他				
42	アメリカスズメノヒエ				○			●						産業管理				
43	タチスズメノヒエ						○	○●		○	○		○		その他			
44	モウソウチク				○	○					○		○		産業管理			
45	ハチク				○	○						●	○		産業管理			
46	マダケ			○	○						●	○			○			
47	オオスズメノカタビラ			○	○	○		●		●					○			
48	オニウシノケグサ			○	○					●				産業管理				
49	セイパンモロコシ						○●		○					その他				
50	ナギナタガヤ								●		●			産業管理				

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

表 48 植物の外来種一覧 (2/4)

No.	分類	目名	科名	種名	第7回 刷新規 種	第7回ふるさといきもの調査										外来種			備 考
						穂 谷	尊 延 寺・ 氷室 台	淀 川	船 橋 川・ 招提 北町	天 野 川	長 尾	藤 阪・ 王仁・ 山田 池	枚 方 西 部 孤 立 林	特 定 外 来 生 物	生 態 系 被 害 防 止 リ ス ト	そ の 他 帰 化 植 物			
51	真正 双子葉 植物	キンボウゲ目	ケシ科	ナガミヒナゲシ				○	○	●						○			
52				ヒナゲシ						●						○			
53			メギ科	ヒイラギナンテン							●	○		その他					
54			キンボウゲ科	トゲミノキツネノボタン				○●								○			
55		ヤマモガシ目	ハス科	ハス			○									○			
56		ユキノシタ目	フウ科	モミジバフウ	☆							●				○	植栽		
57			ベンケイソウ科	モリムランネングサ	☆							●				○	逸出		
58				ツルマンネングサ				○●	○								○		
59				ナガエアズマツメクサ	☆			○	○								○	逸出	
60		マメ目	マメ科	イタチハギ			○	○●		○						重点対策			
61	ゲンゲ				○	○		○			●					○			
62	アレチヌスビトハギ					○	○●		○●	○	●	○		その他					
63	コメツブウマゴヤシ							○			●					○			
64	ウマゴヤシ						○									○			
65	ハリエンジュ				○	○	○		○			○		産業管理					
66	クスダマツメクサ					○										○			
67	コメツブツメクサ				○	○	○●	○	●			●					○		
68	ムラサキツメクサ						●		●								○		
69	シロツメクサ				○	○	○●	○	●		●	○					○		
70	ナヨクサフジ						○●	○	●					産業管理					
71	バラ目	クワ科	イチジク	☆		○										○	逸出		
72			イラクサ科	ナンバンカラムシ					○								○		
73		バラ科	ノミノハゴロモグサ				○										○		
74			ビワ		○	○				○	○●		産業管理						
75			カリン	☆					●							○	植栽		
76			ユキヤナギ								●					○	植栽		
77	ブナ目	クルミ科	カンボウフウ				○●		○		●					○			
78	ウリ目	ウリ科	アレチウリ				○●		○●				特定	緊急対策					
79	カタバミ目	カタバミ科	イモカタバミ				●	○								○			
80			ムラサキカタバミ		○	○			●		●	○				○			
81			オッタチカタバミ		○	○	○●	○	○●	○	●					○			
82	キントラノオ目	トウダイグサ科	コニシキソウ			○	○●			○						○			
83			オオニシキソウ		○	○	○●		○							○			
84			アレチニシキソウ						○							○			
85			ナンキンハゼ			○	○●	○	○●	○	○●	○		その他					
86		トケイソウ科	トケイソウ属の一種	☆					●						○	植栽			
87		ヤナギ科	ギンドロ					○●								○			
88	フウロソウ目	フウロソウ科	アメリカフウロ			○	○●	○	●		●					○			
89	フトモモ目	ミソハギ科	マルバフウロ	☆				○								○	逸出		
90			ホソバヒメミソハギ			○			●							○			
91		アカバナ科	サルズベリ	☆	○											○	植栽		
92			ヤマモモソウ				○●									○			
93			ヒレタゴボウ			○			●								○		
94			メマツヨイグサ		○	○	○●		●	○	●						○		
95			コマツヨイグサ		○	○	○●	○	●	○				重点対策					
96			ヒナマツヨイグサ	☆					●								○	逸出	
97			ユウゲショウ			○	○●	○	○●	○							○		
98	ムクロジ目	ニガキ科	ニワウルシ				○●							重点対策					
99	アオイ目	アオイ科	ムクゲ			○										○			
100			ウサギアオイ					○									○		
101			キクノハアオイ				●										○		
102			ヤノネボンテンカ						○								○		
103			アメリカキンゴジカ						○●								○		
104			アブラナ目	アブラナ科	シロイヌナズナ				○									○	
105	カラシナ					○	○	○	●	○	●		その他						
106	ミチタネツケバナ					○						●					○		
107	カラクサナズナ				○												○		
108	マメグンバイナズナ					○	●		●	○	●						○		
109	オランダガラシ						○	○	●		●			重点対策					
110	ショカツサイ				○												○		

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

表 49 植物の外来種一覧 (3/4)

No.	分類	目名	科名	種名	第7回 新 規 種	第7回ふるさといきもの調査										外来種		備 考	
						穂 谷	尊 延 寺・ 氷 室 台	淀 川	船 橋 川・ 招 提 北 町	天 野 川	長 尾	藤 阪・ 王 仁・ 山 田 池	枚 方 西 部 孤 立 林	特 定 外 来 生 物	生 態 系 被 害 防 止 リ ス ト	そ の 他 帰 化 植 物			
111	真正 双子葉 植物	ナデシコ目	タデ科	シャクチリソバ				○●		●					その他				
112				ヒメツルソバ			○								その他				
113				ヒメスイバ		○									その他				
114				アレチギシギシ			○			●	○	●				○			
115				ナガバギシギシ						○	●				その他				
116				エゾノギシギシ		○				●					その他				
117			ナデシコ科	オランダミミナグサ		○	○	○	○	●		●					○		
118				ミチバタナデシコ	☆		○										○	逸出	
119				イトツメクサ						●							○		
120				シロバナマンテマ						●							○		
121				マンテマ								●			その他				
122				コハコベ			○	○	○			●					○		
123			ヒユ科	ホソバツルノゲイトウ				○●		●								○	
124				ナガエツルノゲイトウ				○●		○●				特定	緊急対策				
125				ホソアオゲイトウ				●									○		
126				ホナガイヌビユ			○				○							○	
127				シロザ		○				○●	○							○	
128				アリタソウ				●		○								○	
129				アメリカアリタソウ	☆			●									○	逸出	
130			ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ		○	○				○	●					○		
131			オシロイバナ科	オシロイバナ						○								○	
132			サボテン科	ウチワサボテン						●								重点対策	
133		ツツジ目	ツバキ科	チャノキ		○	○						○					○	
134			マタタビ科	キウイフルーツ			○						○					産業管理	
135		リンドウ目	アカネ科	メリケンムグラ					○●									○	
136				オオフタバムグラ					○●							その他			
137			リンドウ科	ハナハマセンブリ					●									○	
138			キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ			○			○	○●	○						重点対策	
139		ナス目	ヒルガオ科	マルバルコウ			○	●		○								重点対策	
140				マルバアメリカアサガオ					○●									重点対策	
141				マメアサガオ					○●		○							重点対策	
142				ベニバナマメアサガオ					●									重点対策	
143				ホシアサガオ					○●									その他	
144			ナス科	アメリカイヌホオズキ				○				○						○	
145		ムラサキ目	ムラサキ科	イヌムラサキ						●								○	
146	シソ目		モクセイ科	トウネズミモチ		○	○	○●	○		○	●	○				重点対策		
147			オオバコ科	マツバウンラン						○		●						○	
148				オオマツバウンラン							●							○	
149				ヘラオオバコ					○●		○●		●					○	
150				ツボミオオバコ			○	○	○	●		●						○	
151				オオカワヂシャ			○	○	○	●		●		特定	緊急対策				
152				タチイヌノフグリ		○	○	○	○	●		●						○	
153				フラサバソウ				○	○			●						○	
154				オオイヌノフグリ		○	○	●	○	●	○	●						○	
155			アゼナ科	タケトアゼナ			○											○	
156				アメリカアゼナ			○			●								○	
157			シソ科	セイヨウジュウニヒトエ		○												○	
158				ヒメオドリコソウ		○	○	○	○				●					○	
159				ヨウシュハッカ			○												○
160				マルバハッカ		○	○					○	●						○
161			ハマウツボ科	セイヨウヒキヨモギ					●		●								○
162			ノウゼンカズラ科	アメリカノウゼンカズラ							●								○
163			クマツヅラ科	シチヘンゲ							○●								重点対策
164				ヒメイワダレソウ			○												重点対策
165				アレチハナガサ					○●		○								その他
166				ダキバアレチハナガサ							●								その他
167				ハマクマツヅラ					●		●								その他

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

表 50 植物の外来種一覧 (4/4)

No.	分類	目名	科名	種名	第7回 新 規 種	第7回ふるさといきもの調査										外来種			備 考
						穂 谷	尊 延 寺 ・ 氷 室 台	淀 川	船 橋 川 ・ 招 提 北 町	天 野 川	長 尾	藤 阪 ・ 王 仁 ・ 山 田 池	枚 方 西 部 孤 立 林	特定 外 来 生 物	生態系 被害 防止 リス ト	その他 帰化 植物			
168	真正 双子葉 植物	キク目	キキョウ科	ヒナキキョウソウ				○	●							○			
169				キキョウソウ			○								○				
170			キク科	オオブタクサ				○●		○					重点対策				
171				クソニンジン				●								○			
172				アメリカセンダングサ		○	○	○●	○	○●	○				その他				
173				コセンダングサ			○	○●	○	○●	○	○●				○			
174				ヒメキンセンカ									●			○			
175				ヒメヒレアザミ												○			
176				アメリカオニアザミ									●	○		その他			
177				オオキンケイギク			○				●				特定	緊急対策			
178				コスモス							○●						○		
179				キバナコスモス					○●		○●						○		
180				ベニバナボロギク			○										○		
181				アメリカタカサブロウ					○●		●						○		
182				ダンドボロギク			○										○		
183				ヒメジョオン		○	○	○●	○	○●	○	●	○		その他				
184				アレチノギク			○										○		
185				ヒメムカシヨモギ			○	○			○●						○		
186				ハルジオン		○	○	○	○				●				○		
187				ヘラバヒメジョオン									●				○		
188				オオアレチノギク			○	●				○		○			○		
189				ハキダメギク			○	○									○		
190				キタウラジロチコグサ	☆	○	○	○●				○	●				○	逸出	
191				ミナミウラジロチコグサ	☆	○	○	●			●		●				○	逸出	
192				チチコグサモドキ						○	●		●				○		
193				ウスベニチチコグサ			○	○									○		
194				ククイモ				○									○		
195				ヒメブタナ			○				●		●				○		
196				ブタナ			○●	○	○				●				○		
197				トゲチシャ				○	●			○					○		
198				セイタカハハコグサ						○			●				○		
199				ナルトサワギク					●	○				○	特定	緊急対策			
200				ノボロギク				○		○			●				○		
201				セイタカアワダチソウ			○	○	○●	○	○●	○	○●	○		重点対策			
202				メリケントキンソウ					○●				●				○		
203				オニノゲシ			○	○	○	○		○					○		
204				ヒロハホウキギク			○	○●			○●	○					○		
205				アカミタンボ			○									重点対策			
206				セイヨウタンポポ			○	○	○●	○	●	○	●			重点対策			
207				オオオナモミ					○●	○	○					その他			
208	セリ目	ウコギ科	タカノツメ			○	○			○	○●				○				
209			セイヨウキヅタ								●				○				
210			ウチワゼニクサ					○						重点対策					
211			ヤドリフカノキ	☆									○		○	植栽			
212	マツムシソウ目		スイカズラ科	ノヂシャ				○	○	●		●				○			
種数					16	50	91	104	51	102	40	82	25	5	73	139	17		

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

表 51 哺乳類の外来種一覧

No.	分類	種名	第7回 新規種	調査地区							外来種
				穂谷	尊延寺	淀川	天野川	長尾 荒阪	藤阪	その他	
1	ネズミ目	ヌートリア科	ヌートリア			糞	成		成	成幼	特定外来
2	ネコ目	アライグマ科	アライグマ	足爪糞	足爪糞	足糞	足糞	足糞	足爪糞		特定外来
3		イタチ科	チョウセンイタチ			目尻					外来
4		ジャコウネコ科	ハクビシン		足	糞			足	足	
種数			0種	2種	2種	3種	2種	2種	3種	1種	4種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃，幼:幼体の目撃，屍:死骸，糞:糞痕，食:食痕，爪:爪痕，足:足跡

表 52 鳥類の外来種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区							外来種	
					穂谷・ 国見山	尊延寺・ 氷室台	淀川	天野川	船橋川	穂谷川・ 山田池公園	市内溜池		孤立林
1	キジ目	キジ科	コジュケイ		○	○●							外来
2	ハト目	ハト科	ドバト		●	○	○●	○●	○	○●		○	逸出
3	スズメ目	ガビチョウ科	ソウシチョウ		○●							○	特定外来
4		ムクドリ科	ハッカチョウ	☆				●					外来
種数				1種	3種	2種	1種	2種	1種	1種	0種	2種	4種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認，※：別分門の調査時に確認

表 53 爬虫類・両生類の外来種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区							外来種
					穂谷	尊延寺	淀川	天野川	長尾 荒阪	藤阪	その他	
1	カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ		成		成	成	成	成		特定外来
爬虫類種数				0種	1種	0種	1種	1種	1種	1種	0種	1種
1	無尾目	アカガエル科	ウシガエル		成幼声	成声	声	幼	成幼 屍声	成声		特定外来
両生類種数				0種	1種	1種	1種	1種	1種	1種	0種	1種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃，幼:幼体の目撃，屍:死骸，声:鳴き声

表 54 昆虫類の外来種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区					外来種
					穂谷	尊延寺	山藤 田阪 池・ 公園	淀川 河川 敷	孤立 林	
1	ゴキブリ目	ゴキブリ科	クロゴキブリ				●			外来
2	バッタ目	マツムシ科	カンタン		○		●			外来
3			アオマツムシ		○	●	●			外来
4	カメムシ目	ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ	☆	●	○●	●	●		外来
5		サシガメ科	ヨコツナサシガメ		※		●			外来
6		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ			○	●	●	○	外来
7			ヘクソカズラグンバイ			○				外来
8		カメムシ科	キマダラカメムシ		○		●	●	○	外来
9	チョウ目	ミノガ科	オオミノガ		○				○	外来
10		イラガ科	ヒロヘリアオイラガ			●				外来
11		マダラガ科	タケノホソクロバ						○	外来
12		ヒトリガ科	アメリカシロヒトリ		○●	○●	●		○	外来
13	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ				●	●		外来
14	コウチュウ目	コガネムシ科	シロテンハナムグリ						○	外来
15		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ	☆	●		●		○	外来
16			クモガタテントウ			○				外来
17		カミキリムシ科	ラミーカミキリ				※		○	外来
18			キボシカミキリ		●					外来
19		ハムシ科	ブタクサハムシ				●			外来
20		ゾウムシ科	アルファルファタコゾウムシ	☆					○	外来
21	ハチ目	クモバチ科	ツマアカクモバチ	☆		○				外来
22		アナバチ科	アメリカジガバチ	☆	○				○	外来
23		ミツバチ科	セイヨウミツバチ					●		外来
24			タイワンタケクマバチ				●		○	外来
種数				5種	10種	8種	13種	5種	12種	24種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認，※：別分門の調査時に確認

表 55 魚類の外来種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区								外来種
					天 野 川	穂 谷 川	船 橋 川	ワ 淀 川 ド	水 路 市 街 地	水 路 延 溜 寺 池	王 地 山 仁 蔵 田 公 池 園		
1	コイ目	コイ科	タイリクバラタナゴ						○			外来	
2	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ		○●	○●	○	○	○		○	特定外来	
3	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル				○				○	特定外来	
4			オオクチバス		○●	○	○	○				特定外来	
5		タイワンドジョウ科	カムルチー			●					○	外来	
種数				0種	2種	3種	3種	2種	2種	0種	3種	5種	

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

表 56 その他水生生物の外来種一覧

No.	分類		種名	第7回 新規種	調査地区							外来種
					天 野 川	穂 谷 川	船 橋 川	淀 川 ド	市 路 街 地	水 路 延 溜 池	山 仁 蔵 田 公 池 園	
1	有棒状体綱	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	☆	○	○			○			外来
2	腹足綱	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ			○●	●		○			外来
3		サカマキガイ科	サカマキガイ		○●	○●	○●	○		●	○	外来
4	軟甲綱	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	☆	○	○		○	○		○	外来
5		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		○●	○●	○●	○	○	○●	○	特定外来
種数				2種	4種	5種	3種	3種	5種	2種	3種	5種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

(5) 枚方いきもの調査会のデータとの比較

今回の第7回枚方市自然環境調査と同時期に実施された枚方いきもの調査会の2022年度の確認種数を表 57に示す（「2022年度 枚方いきもの調査会 調査報告書 第21号」より）。なお、当該調査報告書において、同定の根拠に欠けるため「？」が付けられたものや、「〇〇科の一種」など種レベルの同定に至らなかった種に関しては除外した。

第7回枚方市自然環境調査と枚方いきもの調査会2022年度の調査を合わせた合計種数は2,490種となった。

表 57 枚方いきもの調査会2022年度の確認種数

分類	第7回枚方市 自然環境調査		枚方いきもの 調査会2022		合算	
	科	種	科	種	科	種
植物	141	793	158	1148	161	1235
哺乳類	10	14	6	7	10	14
鳥類	38	89	44	141	44	143
爬虫類	8	12	6	9	8	12
両生類	4	7	4	6	4	7
昆虫類	203	878	114	367	212	990
魚類	11	24	13	41	13	42
その他水生生物	27	41	17	18	32	47
合計	442	1858	362	1737	484	2490

この内、第7回枚方市自然環境調査では確認されず、枚方いきもの調査会の調査のみで確認された種のリストを以下に示す。

表 58 枚方いきもの調査会2022年度との確認種の比較

分類	第7回枚方市自然環境調査 のみで確認された種		枚方いきもの調査会2022 のみで確認された種	
	種数	確認種例	種数	確認種例
植物	87	ミズオオバコ、シラン、カワヂシャ	444	フウラン、ナガエミクリ、オミナエシ
哺乳類	8	ニホンリス、ニホンノウサギ、アナグマ	0	なし
鳥類	2	ドバト、ハチジョウツグミ	55	ツクシガモ、ヨタカ、アリスイ、ノゴマ
爬虫類	3	ニホンマムシ、ニホンヤモリ	0	なし
両生類	1	ツチガエル	0	なし
昆虫類	663	モンカゲロウ、イネカメムシ、ヒメアリ	118	ナニワトンボ、カノコガ、ウスバカミキリ
魚類	1	ピリンゴ	20	ゲンゴロウブナ、カワバタモロコ、ボラ
その他水生生物	34	チリメンカワニナ、ミズミミズ	7	カワヒバリガイ、カイエビ、ホウネンエビ
合計	799		644	

(6) 第5回調査との比較

前回の全域調査である第5回枚方市自然環境調査（2011-2012）と本調査の結果を比較した結果を表 59に示す。

今回の第7回枚方市自然環境調査では、植物・動物合わせて442科1,858種の生物が確認され、第5回調査では、植物・動物合わせて361科1,570種が確認された。

分類群別に見ると植物、哺乳類、鳥類、両生類、魚類で確認種数が減少した一方で、昆虫類とその他水生生物の確認種数が増加した。今回の調査では、過年度の調査では同定の難しさからあまり詳しく調べられていなかった種群（ユスリカ類、カスミカメムシ類、水生ミミズ類など）についても種の特定に努めたため、前回よりも確認種数を上回ったと考えられる。なお、確認種数の増減の結果が市内の生物種の増減に直結するとは限らないため、留意されたい。

表 59 第5回調査との確認種数の比較

分類	第5回枚方市 自然環境調査		第7回枚方市 自然環境調査	
	科	種	科	種
植物	141	909	141	793
哺乳類	11	15	10	14
鳥類	32	97	38	89
爬虫類	7	11	8	12
両生類	6	10	4	7
昆虫類	144	485	203	878
魚類	12	33	11	24
その他水生生物	8	10	27	41
合計	361	1570	442	1858

※第5回の確認科数および種数は当時の分類体系による

ア 植物

今回の第7回調査で確認された植物種は141科793種であり、第5回調査の141科909種より減少した。

前回確認されたが、第7回調査および2022年度の枚方いきもの調査会のどちらの調査においても確認されなかった種は、デンジソウやモウセンゴケ、アズマツメクサなどであった。

イ 哺乳類

今回の第7回調査で確認された哺乳類は10科14種であり、第5回調査の11科13種よりわずかに増加した。具体的には、前回確認されたニホンザルとハツカネズミの2種が確認されず、ヒミズ、コウベモグラ、アナグマ、チョウセンイタチの4種が確認された。

ウ 鳥類

今回の第7回調査で確認された鳥類は38科89種であり、第5回調査の32科97種より減少した。

前回確認されたが、第7回調査および2022年度の枚方いきもの調査会のどちらの調査においても確認されなかった種は、ハジロカイツブリ、アメリカヒドリ、オナガガモ、イカルチドリ、マミチャジナイ、ヒガラ、マヒワの7種であった。オナガガモ以外の確認されなかった種は比較的標高の高い場所を好む種（ヒガラ、マヒワ）や、渡りの時期のみに出現する種（マミチャジナイ）など枚方市内での観察自体がまれな種であった。オナガガモは、冬季において全国の水場で普通に見られるカモの仲間であり、近年急速に個体数が減少したという情報はない。偶然今回の調査において確認されなかったものだと考えられる。

エ 爬虫類・両生類

今回の第7回調査で確認された爬虫類・両生類は12科19種であり、第5回調査の13科21種よりわずかに減少した。具体的には、前回確認されたヤマトサンショウウオ（※）、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、ジムグリ、ヤマカガシの5種が確認されず、ニホンスッポンとアオダイショウの2種が確認された。

特に重要種であるヤマトサンショウウオおよびアカハライモリは共に穂谷地区で確認されていたが、今回の調査では確認されなかった。両種は里山の水田や溪流の小止水域に産卵し、水中で幼生期を過ごした後、変態して陸上生活に移る。穂谷地区での耕作放棄地の増加から産卵場所や幼生期を過ごす生息場所が狭まっている可能性が考えられる。

※ 第5回調査の報告書の記載ではカスミサンショウウオだが、最新の研究ではカスミサンショウウオは9種に細分化され (Matsui et al. 2019)、主に近畿地方で確認される種はヤマトサンショウウオ (*Hynobius vandenburghi*) となった。

参考文献) Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S. Misawa, Y. & Tominaga, A. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetol.* 38(1): 32-90.

オ 昆虫類

今回の第7回調査で確認された昆虫類は203科878種であり、第5回調査の144科485種より大きく増加した。前回よりカゲロウ類やユスリカ類、アリ類、カスミカメムシ類などが多く確認された。

前回確認されたが、第7回調査および2022年度の枚方いきもの調査会のどちらの調査においても確認されなかった種は、カトリヤンマ、ハルゼミ、オオミズアオ、ヒメボタルなどであった。

カ 魚類

今回の第7回調査で確認された魚類は11科24種であり、第5回調査の12科33種より減少した。

前回確認されたが、第7回調査および2022年度の枚方いきもの調査会のどちらの調査においても確認されなかった種は、カネヒラの1種のみであった。カネヒラは日本産のタナゴ類の中では最も個体数が多い種である。大阪府内では主に淀川のワンドで多く見られ、淀川と接続した比較的流れの速い水路で見られる。第5回調査時には出口地区の水路で確認された。タナゴ類共通の生態として、二枚貝の中に産卵するため、二枚貝が生息できる環境でないと繁殖することができない。

キ その他水生生物

今回の第7回調査で確認された水生生物（水生昆虫を除く）は27科41種であり、第5回調査の8科10種より増加した。前回確認された種は概ね今回も確認された。

(7) 第7回調査での新規確認種

ア 植物

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された植物種を表 60に示す。

ヒメクラマゴケなど計37種が新たに確認された。なお、新たに確認された種には、単に新たに確認された種（例：ヒメクラマゴケ、タシロラン）、前回の調査時から分類が細分化されて新たに種または亜種等になった種（例、キタウラジロチチコグサ、ミナミウラジロチチコグサ）、新たに記録した植栽種（例：ヒトツバタゴ、シダレザクラ）など様々なパターンが含まれる。

表 60 植物の新規確認種

No.	分類			種名	調査地区										レッドデータブック文献					備考
					穂谷	氷室延寺・	淀川	船橋北川町・	天野川	長尾	山藤田・王仁	孤立方林西部	環境省	近畿	大阪府					
1	シダ植物	イワヒバ目	イワヒバ科	ヒメクラマゴケ	○															
2		ウラボシ目	ヒメシダ科	イブキシダ		○														
3			オシダ科	ヒメカナワラビ								●								
4			シノブ科	シノブ								●								
5			ウラボシ科	クロノキシノブ								●								
6	裸子	マツ目	マツ科	アイグロマツ									○					植栽		
7	単子葉	ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	タチドコロ	○															
8	植物	クサスギカズラ目	ラン科	タシロラン	○●									NT	NT					
9			アヤメ科	アフリカヒメアヤメ								●						植栽		
10			ヒガンバナ科	キバナサフランモドキ				●										逸出		
11		イネ目	カヤツリグサ科	ヤブスゲ								●					A			
12	双子葉植物	ユキノシタ目	フウ科	モミジバフウ								●						植栽		
13			ペンケイソウ科	モリムランネンサ							●							逸出		
14				ナガエアズマツメクサ			○	○										逸出		
15		バラ目	クワ科	イチジク		○												逸出		
16		バラ科	イラクサ科	ムカゴイラクサ		○														
17			ミヤマイラクサ		○															
18			シダレザクラ									●						植栽		
19			カリン						●									植栽		
20		ブナ目	ブナ科	シリブカガシ								●						植栽		
21		キントラノオ目	トケイソウ科	トケイソウ属の一種						●								植栽		
22		フウロソウ目	フウロソウ科	マルバフウロ					○									逸出		
23		フトモモ目	ミヅハギ科	サルズベリ	○													植栽		
24			アカバナ科	ヒナマツヨイグサ						●								逸出		
25		ムクロジ目	ニガキ科	ニガキ		○														
26		ナデシコ目	ナデシコ科	ミチバタナデシコ		○												逸出		
27			ヒユ科	アメリカアリタソウ				●										逸出		
28		ミズキ目	ミズキ科	ウリノキ	○															
29		ツツジ目	サカキ科	ハマヒサカキ									○							
30			ツバキ科	ツバキ（園芸品種）								●						植栽		
31		シソ目	モクセイ科	ヒトツバタゴ								●			VU			植栽		
32				レンギョウ								●							植栽	
33		キク目	キク科	ヒメアザミ								●								
34				キタウラジロチチコグサ	○	○	○●			○		●						逸出		
35				ミナミウラジロチチコグサ	○	○	●			●		●							逸出	
36		セリ目	ウコギ科	ヤドリフカノキ									○					植栽		
37		マツムシソウ目	スイカズラ科	ハコネウツギ								●						植栽		
種数					7種	9種	5種	2種	4種	1種	16種	3種	1種	2種	0種					

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

近 畿：レッドデータブック近畿研究会(2001)「改訂・近畿地方の保護上重要な植物」の掲載種

EX：絶滅種，A：絶滅危惧種 A，B：絶滅危惧種 B，C：絶滅危惧種 C，NT：準絶滅危惧種

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧 I 類，VU：絶滅危惧 II 類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

イ 哺乳類

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された哺乳類を表 61に示す。アナグマの1種が新たに確認された。アナグマは穂谷地区と淀川河川敷で足跡や糞痕が確認された。

表 61 哺乳類の新規確認種

No.	分類	種名	調査地区							レッドデータブック文献		外来種
			穂谷	尊延寺	淀川	天野川	荒長阪尾	藤阪	その他	環境省 RL	大阪府 RL	
1	ネコ目	イタチ科	アナグマ		足糞		足				NT	
種数			1種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	0種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃, 幼:幼体の目撃, 屍:死骸, 糞:糞痕, 食:食痕, 爪:爪痕, 足:足跡, 擦:こすり付け痕, 耕:土耕痕, 道:獣道, 巣:巣, 声:鳴き声, 塚:モグラ塚, 坑:モグラ坑道

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類,

NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足



アナグマ足跡
(穂谷・2023/01/30)

ウ 鳥類

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された鳥類を表 62に示す。ハッカチョウとハチジョウツグミの2種が新たに確認された。

ハッカチョウは、近年近畿・中国地方で分布が拡大している外来種であり、天野川での市民調査時に確認された。大阪府下では、淀川の下流部（十三大橋付近）でよく観察されており、淀川やその支川に沿って分布を拡大させていると考えられる。

ハチジョウツグミは、ツグミの一亜種であったが、近年種に格上げされた。

表 62 鳥類の新規確認種

No.	分類		種名	調査地区								レッドデータブック文献		外来種
				国穂見谷山・	氷室延台寺・	淀川	天野川	船橋川	山穂田谷池川公園・園	市内溜池	孤立林	環境省	大阪府	
1	スズメ目	ムクドリ科	ハッカチョウ				●							外来
2		ヒタギ科	ハチジョウツグミ						●					
種数				0種	0種	0種	1種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	1種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧ⅠA類，EN：絶滅危惧ⅠB類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足



ハッカチョウ
(枚方市外で撮影)

エ 爬虫類・両生類

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された爬虫類・両生類を表 61に示す。厳密に言えば種ではないが、ニホンイシガメとクサガメの雑種であるウンキュウが穂谷地区の溜池で確認された。ニホンイシガメとクサガメでは、好んで生息する環境にズレがあるため、ウンキュウは自然下ではまれに発生する程度である。ただし、ニホンイシガメのみが生息する池などにクサガメを放流するなどして人為的攪乱が生じた場合はウンキュウが生まれる可能性が高くなる。本調査では1個体のみの確認であったため、大規模な遺伝的な汚染は生じていないと思われる。

表 63 哺乳・爬虫・両生類の新規確認種

No.	分類		種名	調査地区							レッドデータブック文献		外来種
				穂谷	尊延寺	淀川	天野川	荒長阪尾	藤阪	その他	環境省 RL	大阪府 RL	
1	カメ目	イシガメ科	ウンキュウ（雑種）	成									
種数				1種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	0種

【フィールドサインの凡例】

成:成体の目撃, 幼:幼体の目撃, 屍:死骸, 糞:糞痕, 食:食痕, 爪:爪痕, 足:足跡, 擦:こすり付け痕, 耕:土耕痕, 道:獣道, 巣:巣, 声:鳴き声, 塚:モグラ塚, 坑:モグラ坑道

【レッドリストの凡例】

環境省: 環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 IA 類, EN: 絶滅危惧 IB 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足

大阪府: 大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX: 絶滅, CR+EN: 絶滅危惧 I 類, VU: 絶滅危惧 II 類, NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足



ウンキュウ(クサガメとニホンイシガメの雑種)
(穂谷・2023/06/07)

オ 昆虫類

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された昆虫類の概要を表 64に示す。

モンカゲロウなど計318種が新たに確認された。過年度の調査では同定の難しさからあまり詳しく調べられていなかったカゲロウ類やユスリカ類などの水生昆虫、カスミカメムシ類やアリ類などの微小昆虫で多くの新規確認種が確認された。

表 64 昆虫類の新規確認種概要

分類	新規確認種数	新規確認種の一例
カゲロウ目	10	モンカゲロウ、フタモンコカゲロウ、シロタニカワカゲロウ
ハサミムシ目	1	コバネハサミムシ
カワゲラ目	3	クロカワゲラ科の一種、オナシカワゲラ属の一種
バッタ目	3	マダラカマドウマ、ヒメクダマモドキ、コバネヒシバッタ
ナナフシ目	1	タイワントビナナフシ
カメムシ目	53	クワキジラミ、フジグンバイ、アカサシガメ、ノコギリカメムシ ヒョウタンカスミカメ、エンドウヒゲナガアブラムシ
アミメカゲロウ目	8	ヤマトヒロバカゲロウ、ムモンクサカゲロウ、ヤマトヒメカゲロウ
トビケラ目	6	コガタシマトビケラ、ニンギョウトビケラ
チョウ目	33	ボクトウガ、トビハマキ、ブドウトリバ、アミメマドガ、 キオビベニヒメシャク、エビガラスズメ、カラスヨトウ
ハエ目	45	ホリカワクシヒゲガガンボ、ウスイロユスリカ、 エノキトガリタマバエ、フタホシヒラタアブ、ヒメフンバエ
コウチュウ目	91	チビクワガタ、スジコガネ、クロタマムシ、ヒゲナガコメツキ、 マルムネジョウカイ、ムネアカオオクロテントウ、クワカミキリ、 ナミアオハムシダマシ、ヨツモンカメノコハムシ、ヒメコブオトシブミ
ハチ目	64	オオズアリ、ヨツボシオオアリ、ミカドドロバチ、イワタギングチ、 ヤマトルリジガバチ、コマルハナバチ、シロスジカタコハナバチ
合計	318	



シロタニカワカゲロウ
(穂谷川・2022/11/17)



マダラカマドウマ
(穂谷・2022/09/30)



アミメマドガ
(尊延寺・2023/05/10)



ノコギリカメムシ
(淀川・2023/06/24)

新規確認種のうち重要種または外来種に該当するものを表 65に示す。

重要種では、ヒラタトガリカメムシ、キベリマメゲンゴロウ、ガムシ、ハラグロオオテントウの4種が該当する。なお、ヒラタトガリカメムシは国内では八重山諸島でのみ生息するため、当地で確認された個体は外来のものである。

外来種ではチュウゴクアミガサハゴロモ、ミスジキイロテントウ、アルファルファタコゾウムシ、ツマアカクモバチ、アメリカジガバチの5種が該当する。

表 65 昆虫類の新規確認種（重要種・外来種）

No.	分類		種名	調査地区						外来生物	レッドデータブック文庫	
				陸生昆虫調査					水生昆虫調査		環境省 RL	大阪府 RL
				穂谷	尊延寺	山藤田池・公園	淀川河川敷	孤立林				
1	カメムシ目	ハゴロモ科	チュウゴクアミガサハゴロモ	●	○●	●	●			外来		
2	コウチュウ目	カメムシ科	ヒラタトガリカメムシ(注1)			●		○			NT	
3		ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ						○		NT	VU
4		ガムシ科	ガムシ						○※		NT	NT
5		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ		○					外来		
6			ハラグロオオテントウ			●						NT
7			ゾウムシ科	アルファルファタコゾウムシ		○					外来	
8	ハチ目	クモバチ科	ツマアカクモバチ	○				○		外来		
9		アナバチ科	アメリカジガバチ				●			外来		
種数				2種	3種	3種	2種	2種	2種	5種	3種	3種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認，※：別分門の調査時に確認

(注 1) ヒラタトガリカメムシは環境省 RL で NT に指定されているが、本来国内では八重山諸島でのみ生息する種であり、確認された個体は外来のものであると考えられる。

【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧 II 類，

NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧I類，VU：絶滅危惧II類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足



チュウゴクアミガサハゴロモ
(藤阪・2022/10/22)



ヒラタトガリカメムシ
(山田池公園・2023/05/27)

カ 魚類・水生生物

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された魚類を表 66に示す。ビリンゴの1種が新たに確認された。

ビリンゴは、冬季に船橋川で1個体確認された。

表 66 魚類の新規確認種

No.	分類		種名	調査地区							レッドデータブック文献		外来種
				天野川	穂谷川	船橋川	淀川 ワンド	市街地 水路	尊延寺 水路溜池	山地 仁蔵田 公池池園	環境省	大阪府	
1	スズキ目	ハゼ科	ビリンゴ			○						DD	
種数				0種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	0種

○：専門調査で確認，●：市民調査隊または公開調査会で確認

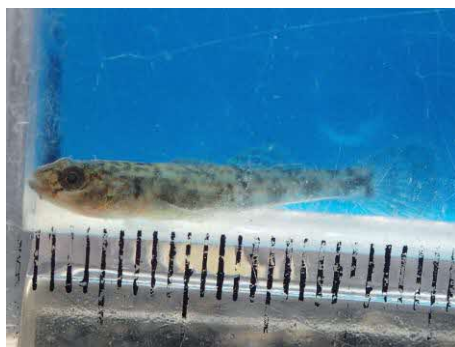
【レッドリストの凡例】

環境省：環境省(2020)「環境省レッドリスト 2020」の掲載種

EX：絶滅，EW：野生絶滅，CR：絶滅危惧ⅠA類，EN：絶滅危惧ⅠB類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，
NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

大阪府：大阪府(2014)「大阪府レッドリスト 2014」の掲載種

EX：絶滅，CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足



ビリンゴ
(船橋川・2023/02/20)

第1回～第6回の枚方自然環境調査および平成28年（第6回調査実施年）までの枚方いきもの調査会の確認種から、今回の第7回調査で新たに確認された水生生物を表 67に示す。

アメリカツノウズムシなど計27種が新たに確認された。過年度の調査では同定の難しさからあまり詳しく調べられていなかった水生ミミズ類や水生ヒル類などで多くの新規確認種が確認された。

重要種にはオオタニシ、モノアラガイ、ナガオカモノアラガイが該当し、オオタニシとモノアラガイは船橋川で、ナガオカモノアラガイは出口地区の水路で確認された。

外来種にはプラナリアの仲間であるアメリカツノウズムシと淡水生のヨコエビであるフロリダミズヨコエビが確認された。

表 67 水生生物（昆虫類を除く）の新規確認種

No.		分類	種名	調査地区							レッドデータブック文庫				
				天野川	穂谷川	船橋川	ワンド淀川	市街地水路	尊延寺水路溜池	王仁公園	山田池	環境省	大阪府	外来種	
1	有棒状体綱	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	○	○			○						外来	
2	有針綱	マミズヒモムシ科	ミミズヒモムシ属の一種	○											
3	ハリガネムシ綱	ハリガネムシ科	ハリガネムシ目	●	○										
4	腹足綱	タニシ科	オオタニシ			●									
5		カワニナ科	チリメンカワニナ		○	○	○	○		○				YU	
6		カワザンショウガイ科	ウスイロオカチグサガイ	○	○										
7		モノアラガイ科	モノアラガイ			○					NT	CR+EN			
8		オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ					○				NT			
9		ミミズ綱	オヨギミズ科	オヨギミズ科の一種	○	○					○				
10			ミズミズ科	エラオイミズミズ							○				
11				エラミズ	○				○	○					
12			ユリミズ		○										
13			ミツゲミズミズ	○											
14			ナミミズミズ	○	○										
15			ミズミズ	○											
16			クロオビミズミズ	○			○								
17			ヨゴレミズミズ	○	○			○							
18			ミズミズ科の一種	○			○	○		○					
19		ヒモミズ科	ヤマトヒモミズ							○					
20		ツリミズ科	ツリミズ科の一種	○											
21	ヒル綱	フトミズ科	フトミズ科の一種							○					
22		ヒラタビル科	ハバヒロビル	○	○	○									
23		ヒラタビル科	ヌマビル	○				○							
24		ヘモビル科	ウマビル	●											
25		イシビル科	ナミイシビル		○										
26			イシビル科の一種	○		○		○		○					
27	軟甲綱	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	○	○		○	○		○				外来	
28		ミミズ綱	ヨコエビ目の一種	●		●									
29		ヌマエビ科	ミゾレヌマエビ	○											
30			カワリヌマエビ属の一種	○●	○●	○	○	○	○	○					
31	被喉綱	カラクサコケムシ科	カラクサコケムシ			○									
種数				20種	12種	8種	5種	10種	2種	9種	1種	3種	2種		



アメリカツノウズムシ
(天野川・2023/02/22)



モノアラガイ
(船橋川・2023/02/20)



フロリダマミズヨコエビ
(天野川・2023/02/22)

(8) みどりのネットワーク

みどりのネットワーク（エコロジカル・ネットワーク）とは、「生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐネットワーク」のことである。枚方市内には生物の生活基盤となる公園や河川、農耕地、雑木林などが点在しているが、小規模な緑地が独立している状態では、主に動物にとって餌資源や繁殖場所が制限され、生息地として厳しい環境である。このような生息地となる緑地同士を街路樹などの植栽によって繋いでコリドー（生態学的回廊）を確保し、動物が移動できるようなネットワークを形成することが、生物多様性の豊かさの向上に繋がる。

みどりのネットワークの構成要素を表 68に、枚方市におけるみどりのネットワークのイメージ図を図 8に示す。

枚方市内の主要な生物の供給地は、淀川河川敷、山田池公園、東部の中山間地域であり、これらの核となる緑地同士をネットワークで繋ぐことで、生物の往来が容易になり、市域全体の生物多様性の向上が見込まれる。実際に枚方市では、街路樹による沿道の緑化や公共施設等の植栽による緑化の推進などによって花とみどりに囲まれたまちづくりを進めている。

表 68 みどりのネットワークの構成要素

構成要素	役割 等	枚方市内の該当場所
供給地	・他の場所への種の供給 ・他の場所からの逃避した種の受入	淀川河川敷、山田池公園、枚方市東部の中山間地域
拠点	・生物の生息・生育環境となり、分布域の拡大に貢献する	中規模な公園緑地や市街地の農耕地、再開発地区における緑地など
回廊	・供給地や拠点の連絡 ・生物が移動するための通り道となる緑や水辺	街路樹や生垣などの線状に繋がった緑や河川
点在する緑	・供給地、拠点、回廊の間を補完 ・構造物など人工的なものに対する緩衝的な役割 ・人と生物が日常的にふれあう機会を提供	個人の庭、屋上や壁面の緑化空間、学校、池、プランターなどの小規模な緑地



沿道の緑化



公共施設(市役所)の植栽

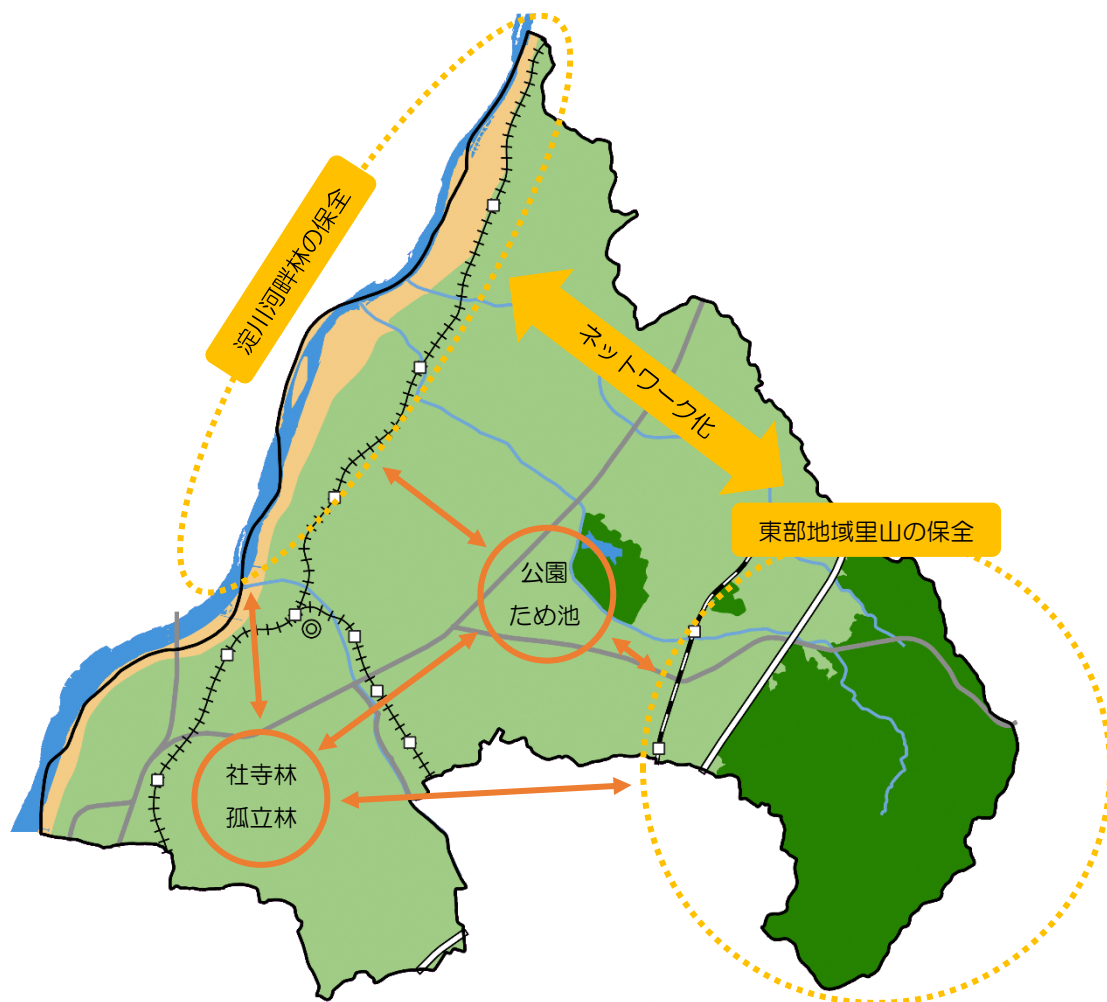


図 8 枚方市のみどりのネットワーク

(9) 枚方市の現状と課題(生物多様性の喪失について)

今回の第7回ふるさといきもの調査で確認された1,858種の生物も含めて、地球上には約3,000万種もの多種多様な生物が生育・生息している。生物種はそれぞれが他の生物種と直接的に、あるいは間接的に繋がって生態系を構成し、こうした生態系内の種や種同士の繋がり豊かなさを生物多様性と呼ぶ。私たち人類も生態系を構成する一員として生物多様性の恵みを享受して生活している。

2024年現在、地球上の生物多様性は急速に失われつつあり、世界の生物多様性は過去50年で68%喪失したと報告されている(WWF, 2020)。地球上の生物種の絶滅速度は、1600年～1900年においては1年につき0.25種であったが、1975年以降は1年に4万種もの生物が絶滅していると言われており、日本国内でも約1/4の生物種が絶滅のおそれのある種となっている。

生物多様性の喪失の要因として、「生物多様性国家戦略2023-2030」の中で4つの要因が取り上げられている。以下にそれぞれの要因について枚方市の現状と課題を整理した。

参考文献) WWF. 2020. Living Planet Report 2020. Aiming Higher. Grooten, M. and Almond, R.E.A. (Eds).
WWF, Gland, Switzerland.

ア 開発など人間活動による要因

1つ目の要因は、開発や改変によって自然性の高い森林や草原、農地、湿原、干潟などが失われ、生物の生育・生息場所となる土地が減少することであり、最も直接的な要因である。

戦前（1932年）から現在に至るまでの枚方市の緑被率の変遷を図 10に示す。枚方市の緑被率は高度経済成長期後の1975年に約半分の52.1%となり、その後も宅地開発等により減少するが、2000年以降は34%前後を保ち続けている。

図 9に1990年以降の植生面積の内訳を示す。全体の緑被率は約1/3を保ち続けているが、緑地の種類に関しては変化があり、近年農耕地の縮小が進んでいる。1990年には約878.45haあった農耕地は、2023年には約530.66haに減少し、約1/3が消失した。消失した農耕地は宅地開発によって住宅地へと変わったものや、管理が放棄されて草地や主に先駆性の樹種が生育する樹林へ遷移したのが見られた。一方で、植栽の面積は近年拡大しており、住宅団地や工場敷地などの改変された土地に樹木等が植栽され、都市部の緑地空間が形成されている。

以上のことから都市部の緑地などに生息する種（ヒヨドリ、キタキチョウなど）は生息適地が拡大しているものの、水田などの農耕地に生息する種（ケリ、ミナミメダカ、ホウネンエビなど）は生息適地が縮小しつつある。枚方市内において最も減少のおそれのある生物種は、上記のような水田生態系の構成種だと考えられる。

生育・生息場所となる土地の減少への対策として、都市計画制度や環境影響評価条例等の制度によって一定の抑制が働いている。しかしながら、孤立林や住宅地内の農地などの都市近郊の小規模な自然環境には法的な規制がない場合が多く、生物多様性の保全上重要な孤立林や農地に対しては、別の開発抑制となる制度の検討が必要である。

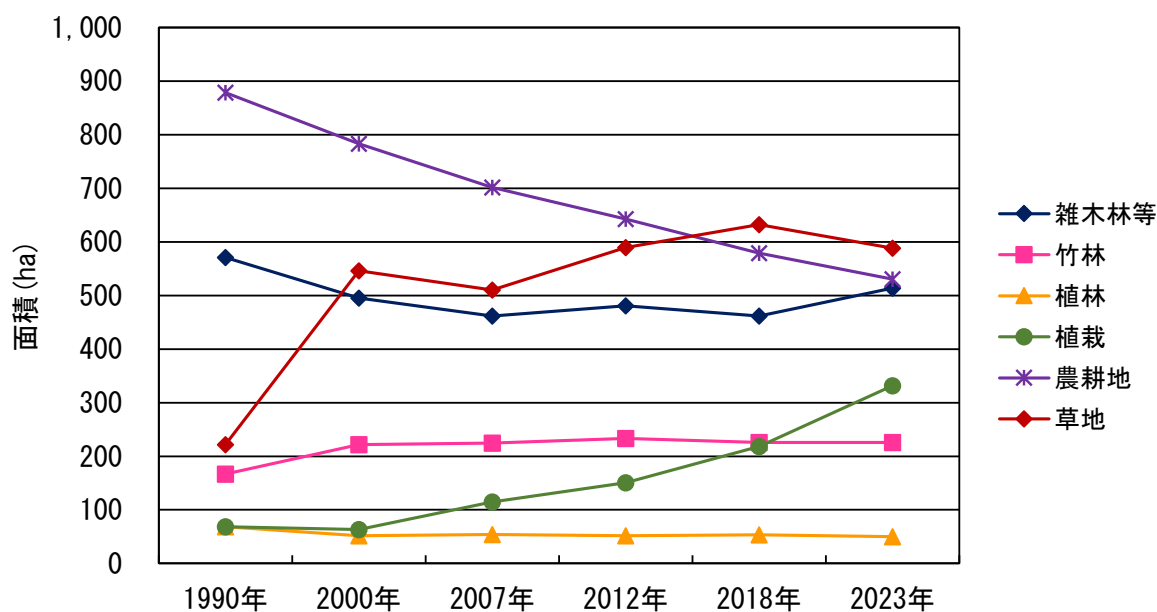


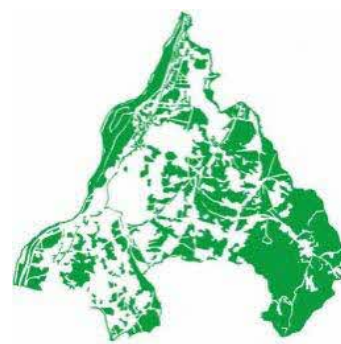
図 9 植生面積の経年変化（再掲）



1932年(緑被率:92.0%)



1965年(緑被率:83.3%)



1975年(緑被率:52.1%)



1984年(緑被率:41.1%)



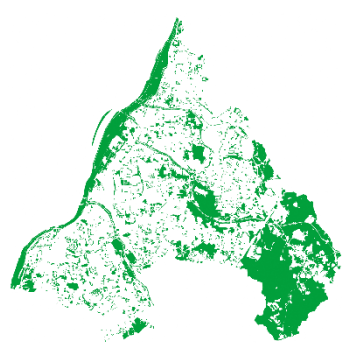
2000年(緑被率:33.5%)



2012年(緑被率:33.0%)



2018年(緑被率:33.1%)



2023年(緑被率:34.4%)

図 10 緑被状況の経年変化
(2023年以外は過年度の報告書より引用)

イ 自然に対する働きかけの縮小による要因

2つ目の要因は自然に対する働きかけの縮小である。里地里山の環境は農耕地や薪炭林、水路、ため池等の多種多様な環境がモザイク状に存在することで、これらの境界部を利用する種（水場と陸地を行き来するカエル類など）の数が増加し、高い生物多様性を保持している。しかし、こうした農耕地や薪炭林などが放棄され、管理がされなくなると里地里山のモザイク性は次第に失われ、単一な環境と変化していく。

航空写真の判読による植生調査や孤立林調査の結果、枚方市では主に中山間地域の穂谷地区や尊延寺地区において山間部の農耕地が放棄されて、草地や先駆性の樹種が生育する樹林へと遷移している箇所が複数確認された。また、管理が行き届かず荒れた竹林も散見され、隣接するコナラ林などを侵食している箇所も確認されている。

自然に対する働きかけの縮小への対策として、中山間地域の農業生産活動への振興が必要である。中山間地域で放棄される農耕地は山間にあるものが多く、食料生産の面から見るとあまりコストパフォーマンスは高くない。このような農耕地でも、そこに生育・生息する生物種にとっては重要な場所となる場合がある。山間の農耕地でも営農し続けられるような制度作りとその担い手の確保が課題である。

課題に対する施策として、枚方市では地産地消の推進を行っている。地元農家が栽培・収穫した新鮮な農産物を販売する「ふれあい朝市」を市内各所で開催したり、学校給食への供給、杉北町のすももを使用した「すももサイダー」や市内で採れたサツマイモを使用した「さつまいも鯛焼き」など農業の6次産業化に向けた取組を実施している。



耕作放棄地
(尊延寺地区・2022/8/19)



荒れた竹林
(大阪府立いちりつ高校・2023/11/12)

参考文献) 枚方市役所 観光にぎわい部 農業振興課「地産地消に向けた取り組み」

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000046464.html> (最終更新日：2022.11.30)

ウ 人間により持ちこまれたものによる要因

3つ目の要因は人間により持ちこまれたものである。主に外来生物や農薬などの化学物質、マイクロプラスチックなど意図的・非意図的を問わず、自然へと放出されてしまったものによって生物多様性がおびやかされている。特に外来生物は自然界に持ち込まれた後、増殖して拡散されるため、生態系へ影響や人への危害、農林水産業への被害など、様々な問題を引き起こす原因となっている。

第7回調査において250種以上の外来種が確認された（詳しくは52ページを参照）。今回の調査でキバナサフランモドキやアメリカジガバチ、フロリダミズヨコエビなどの新規外来種が計24種確認された。ハッカチョウやチュウゴクアミガサハゴロモなど近年周辺地域で見られるようになった外来生物が枚方市内でも見られるようになった。

「特に生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれのある外来種」として外来生物法に定められる特定外来生物に指定された種は、アレチウリやアライグマなど計14種が確認された。特定外来生物の一覧および第5回調査時との確認地点の違いを表 69に示す。

ナルトサワギクとソウシチョウは第5回調査では確認されなかったが、第7回調査で複数の地区で確認された。オオカワヂシャやヌートリアなどは第5回調査で確認された地区以外の地区でも確認されるようになり、分布を拡大させていることが推測される。

表 69 特定外来生物確認地区の比較

分類	種名	第5回枚方市自然環境調査 の確認地区	第7回枚方市自然環境調査 の確認地区
植物	アレチウリ	穂谷、淀川、天野川	淀川、天野川
植物	ナガエツルノゲイトウ	淀川、天野川	淀川、天野川
植物	オオカワヂシャ	淀川、天野川、招提北町	尊延寺、淀川、天野川、 招提北町、山田池公園、
植物	オオキンケイギク	天野川	尊延寺、天野川
植物	ナルトサワギク	記録なし	淀川、招提北町、 香里ヶ丘中央公園
哺乳類	ヌートリア	淀川、天野川	淀川、天野川、船橋川、藤阪、 山田池公園
哺乳類	アライグマ	穂谷、尊延寺、淀川、天野川、 藤阪、長尾荒阪	穂谷、尊延寺、淀川、天野川、 藤阪、長尾荒阪
鳥類	ソウシチョウ	記録なし	穂谷、香里園桜木町
爬虫類	ミシシippアカミミガメ	淀川、天野川、長尾荒阪	穂谷、淀川、天野川、藤阪、 長尾荒阪
両生類	ウシガエル	穂谷、尊延寺、淀川、天野川、 長尾荒阪	穂谷、尊延寺、淀川、天野川、 長尾荒阪、藤阪
魚類	カダヤシ	天野川、穂谷川、船橋川、渚	天野川、穂谷川、船橋川、 淀川ワンド、出口、山田池
魚類	ブルーギル	穂谷川、天野川、ため池	船橋川、山田池、地藏池
魚類	オオクチバス	天野川、穂谷川、船橋川、 ため池	天野川、穂谷川、船橋川、 淀川ワンド
その他 水生生物	アメリカザリガニ	天野川、穂谷川、船橋川、 出口、ため池	天野川、穂谷川、船橋川、 淀川ワンド、出口、茄子作、 尊延寺、山田池、王仁公園

※赤字は第5回と第7回の相違点を示す。

第7回調査で新たに確認された特定外来生物はいなかったが、人を刺すこともある有毒なヒアリや果樹等に深刻な被害をもたらすクビアカツヤカミキリアリや、ツヤハダゴマダラカミキリなどの特定外来生物は枚方市周辺の自治体で目撃例があり、いつ枚方市内に侵入するかは予断を許さない状況である。こうした生物種が市内に侵入しないようにすることは難しいが、拡大・蔓延しないようにすることは可能である。いずれの外来種においても、侵入した際に早期に発見し、早期に駆除などの対策を施し、拡散して手遅れになる前に芽を摘むことが重要であり、その体制作りが課題である。特に生態系等に被害を及ぼす危険性を持った外来種が市内で見つかった場合は、早急に駆除等を行えるような制度が望ましい。

エ 地球環境の変化による要因

4つ目の要因は地球温暖化等による気候変動で、地球全体の環境の変化していることである。今回の第7回調査において新たに確認されたヨツモンカメノコハムシは、琉球諸島に分布していた南方種である。温暖化の影響により、日本のより南方に生息・生育していた種が近年急速に分布を北上させている。ヨツモンカメノコハムシ以外にもキマダラカメムシ、ナガサキアゲハなどが温暖化に伴って分布を北上させている種であり、今回の第7回調査でも確認された。

地球環境の変化に対して、枚方市では令和2年2月8日に開催した環境イベント「エコフォーラム2020」において、伏見市長が「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を宣言し、令和3年3月に「第3次枚方市環境基本計画」を策定した。市民・市民団体・事業者と連携した地球温暖化対策や公共施設における太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの率先導入などに取り組み、脱炭素化を推進している。

また、地球温暖化が異常気象や海水面の上昇といった影響だけではなく、生物多様性の喪失に繋がることは広く周知すべき事項である。枚方市地球温暖化対策協議会では、会員による小・中学生を対象とした環境出前授業や施設見学、教材提供等の環境教育・学習に取り組んでいる。このような環境学習の場において、「枚方にどのような生物が生育・生息しているのか」、「枚方の自然がどのように移り変わっているのか」などを本調査の成果物等を活用して広く伝え、小・中学生だけではなくその親や家族まで生物多様性の喪失に関する問題意識をもってもらうことが大切である。地球温暖化対策はスケール感の大きさから他人事のように捉えてしまう場合が多いが、個人個人が当事者意識を持ち、行動することがこの問題の解決の糸口である。本調査の結果は、市民の方々が生物多様性について今一度考えるきっかけとなることを願う。

参考文献) 枚方市 環境部 環境政策室「第3次枚方市環境基本計画 地域から地球へ、みんなでつなぐ豊かな環境 ～住み続けたいまち 枚方～」2021年3月
枚方市役所 環境部 環境政策課「枚方市地球温暖化対策協議会が行う環境教育『メニューバンク』」
<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000049165.html> (最終更新日: 2024. 2. 29)

(10) 生物多様性保全のための各主体の役割

生物多様性の保全ためにそれぞれの主体（市民、事業者、学校、行政等）が担う役割を表 70 に示す。

表 70 生物多様性保全のための役割

主体	役割 等
市民	・自然を大切にしたり、エコマーク等のついた商品を選択的に購入したりするなど環境に配慮した生活を心掛ける ・環境に関する各種イベント等に参加し、理解を深める
事業者	・温室効果ガスの排出削減や再生可能エネルギーへの切り替えなどカーボンニュートラル実現のため取り組む ・環境に関する各種イベント等に参加し、理解を深める
学校	・環境学習を通じて市民への普及啓発
学識者 有識者	・生物多様性保全のための技術的助言やサポート
行政	・ホームページや広報による普及啓発 ・自然観察会などの市民を交えたイベントの企画・運営・補助 ・生物多様性の喪失を伴う行為についての規制 ・異なる主体間をつなぎ、協働体制を構築するためのサポート